

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

国語 科目 文学国語

教科：国語

科目：文学国語

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組

教科担当者：（1組：佐藤圭）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（新編 文学国語（大修館書店））

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 文学国語

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読						
1 学 期	・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。	「少なくとも最後まで歩かなかった」			○	○	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。	○	○	○	5
	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・「外側と内側」のように物事を比較してとらえ、認識を深める。	「そとみとなかみ」			○	○	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。	○	○	○	5
	定期考査							○	○		1
	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。	「ナイン」			○	○	【知識・技能】 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文学作品の描写や会話、特徴のある表現に興味をもち、登場人物の人間関係や心理を読み取ろうとしている。	○	○	○	6
	・場面の設定のしかたをとおして登場人物の心情を考える。 ・情景描写の効果を考えながら読む。	「晴れた空の下で」			○	○	【知識・技能】 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・登場人物の人物像や心情を読み取ることに興味をもち、作品の構造を理解しようとしている。	○	○	○	4
	・話のおもしろさと教訓をとらえる。	「児の飴食ひたること」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、登場人物の言動や話のおもしろさを読み取ろうとしている。	○	○	○	1
	定期考査							○	○		1
	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。	「小景異情」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえて、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・詩を読むことに興味をもち、その形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。	○	○	○	2
	・詩に表された作者の心情を読み味わう。 ・詩のさまざまな表現と、その効果について考える。	「永訣の朝」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえて、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・詩を読むことに興味をもち、その形式や表現の特徴を意識しながら、情景や心情を味わおうとしている。	○	○	○	2

2 学 期	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	「山月記」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。	○	○	○	8
	定期考査							○	○		1
	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・漢文訓読調の文章の魅力を味わう。	「かぐや姫の昇天」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。	○	○	○	2
	・登場人物の描写から人物像をとらえ、場面ごとの心情を読み取る。 ・仕事や自然に対する描写を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。	「神去なあなあ日常」			○	○	【知識・技能】 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、仕事や自然に対する描写を読み取ろうとしている。	○	○	○	4
	・小説を読む楽しさを味わう。 ・この話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。	「靴」			○	○	【知識・技能】 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかたをふまえて、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、この話に込められた寓意を読み取ろうとしたり考えを深めたりしようとしている。	○	○	○	3
定期考査								○	○		1
3 学 期	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	「身内ほど厄介なものはない」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、身の回りのことに当てはめながら筆者の主張を理解しようとしている。	○	○	○	7
	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。	「柿」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定のしかた、表現の特色について評価することをとおして、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、文章の構成や表現の工夫について考えながら読み味わおうとしている。	○	○	○	8
	・作品に表れている作者の考え方をとらえる。	「行く河の流れ」			○	○	【知識・技能】 ・文学的な文章を読むことをとおして、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔(2)ア〕 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作品に興味をもち、自分の身の回りのできごとと比較しながら作者の考え方をとらえようとしている。	○	○	○	8
	定期考査							○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 国語 科目 国語表現

教科：国語

科目：国語表現

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組

教科担当者：（①組：佐藤圭）（②組：金綱俊伸（組： ））（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（大修館書店「国語表現」国表701）

教科 国語

の目標：

生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語表現

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読					
1 学期 中間	・表記の決まりを意識し、正しく書く。 ・漢字や慣用表現を正しく使う。	レッスン1 言葉と表記	○	○	○	○	○	○	2
	・係り受けについて理解する。 ・文末表現について理解する。	レッスン2 整った文を書く	○	○	○	○	○	○	2
	・敬語について正しい理解をもち、その使い分けについて理解する。 ・話し言葉と書き言葉の違いや、その使い分けについて理解する。 ・和語・漢語・外来語のニュアンスの違いと、その使い分けについて理解する。	レッスン3 相手に応じた言葉遣い	○	○	○	○	○	○	2
	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。	レッスン4 わかりやすい文を書く	○	○	○	○	○	○	2

	<ul style="list-style-type: none"> ・接続表現の種類と働きを理解する。 	レッスン5 文のつなぎ方	○	○	【知識・技能】 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために、接続表現の種類や働きを知り、文章の中で適切に用いている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。〔B(1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・「接続表現クイズ」を解くことをとおして、文と文のつなぎ方に着目した学習に対して積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 	■実践トレーニング①	○	○	【知識・技能】 ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。〔(1)イ〕 ・自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)ウ〕 【思考・判断・表現】 ・読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などをふまえて、自分の文章の特長や課題をとらえ直したりしている。〔B(1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・単元1のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介のやりとりをとおして相互理解を図る。 ・取り上げる内容は話し方を工夫して、わかりやすく自己紹介をする。 	レッスン1 自己紹介ゲーム	○	○	【知識・技能】 ・話し言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、自己紹介している。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場に応じて、他者との多様な交流を想定しながら情報を収集、整理して、内容を検討している。〔A(1)ア〕 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選び、同意や共感が得られるよう表現を工夫している。〔A(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ゲームをとおして言葉で伝え合うことを楽しみ、基礎的な対話活動に前向きに取り組もうとしている。	○	○	○	1
1 学 期 末	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くこと・話すこと、伝え合うことを見つめ直し、コミュニケーションに対する意識をもつ。 ・コミュニケーションの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組む姿勢をもつ。 	レッスン2 言葉のストレッチ体操 【表現への扉】 「それでいいです」／意図理解の難しさ	○	○	【知識・技能】 ・話し言葉や非言語的表現の特徴と役割について理解を深め、目的や場面に応じた適切な表現を理解している。〔(1)イ〕 【思考・判断・表現】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応に応じて言葉を選び、相手の同意や共感が得られるよう表現を工夫している。〔A(1)エ〕 ・「話すこと・聞くこと」において、視点を明確にして聞きながら、共感を伝えたり相手の思いや考えを引き出したりしている。〔A(1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・伝え合うことの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。	○	○	○	2
	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真を見て文章を書き、相手に伝わる文章を書くために必要なことを理解する。 ・相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。 	レッスン3 絵や写真を見て書く	○	○	【知識・技能】 ・説明の順序や5W1H、比喩を用いた説明など、相手に伝わるように書く文章について理解を深めている。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、伝えたい情報を整理し順序立てて、事象を的確に描写・説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B(1)オ〕 ・「書くこと」において、読み手に効果的に伝わるように書かれているかを吟味して、自分の文章の特長や課題をとらえ直している。〔B(1)カ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・絵や写真を文章で説明することに興味をもち、相手に伝わるように書く練習に意欲的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hを明確にし、事実と意見を区別して文章を書く。 	レッスン4 マイニュース記事を書こう	○	○	【知識・技能】 ・実用的な文章などの種類や特徴、構成や展開のしかたなどについて理解を深める。〔(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にする。〔B(1)ア〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近なテーマを見つけ、ニュース記事を書く活動に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	4

2 学期 末	<p>・小論文の基本的な書き方を理解する。 ・意見を筋道を立てて書く。 ・原稿用紙の使い方や推敲の観点を理解する。</p>	<p>レッスン1 小論文とは何か</p>	○	○	<p>【知識・技能】 ・小論文の特徴、構成や展開のしかたなどについて理解を深めている。〔B(1)エ〕 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いて論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・小論文と感想文の違いをふまえ、小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>・反論を想定して小論文を書くことの意味を理解する。 ・反論を想定して書く構成を理解し、それに沿って小論文を書く。</p>	<p>レッスン2 反論を想定して書く</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、説得力のある理由を吟味して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・反論を想定し、説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>・文章の要旨をつかむための方法を理解する。 ・資料に対する自分の意見を明確にして小論文を書く。</p>	<p>レッスン3 文章を読み取って書く 【表現への扉】「再生」は日常生活から／時代の気分、言葉の温度／藤井新棋聖</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、読み取った文章の要旨から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の共感が得られるよう、適切な具体例を効果的に配置するなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)ウ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・文章から読み取ったことをふまえて小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4
3 学期	<p>・統計資料から読み取ったことをふまえて論点を整理する。</p>	<p>レッスン4 統計資料を読み取って書く 【表現への扉】データを読む③／データを読む④</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、読み取った統計資料から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・統計資料から読み取れることをもとに小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
	<p>・統計資料から読み取ったことをふまえて小論文を書く。</p>	<p>レッスン4 統計資料を読み取って書く 【表現への扉】データを読む③／データを読む④</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、読み取った統計資料から適切な題材を決め、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、自分の考えを明確にし、根拠となる情報をもとに的確に説明するなど、表現のしかたを工夫している。〔B(1)エ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・統計資料から読み取れることをもとに小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
	<p>・発想を広げるための方法を理解する。 ・テーマをもとに発想を広げて小論文を書く。</p>	<p>レッスン5 発想を広げて書く</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて発想を広げるための方法を理解し、情報の組み合わせなどを工夫して、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、読み手の同意が得られるよう、発想を広げたことをふまえて、適切な根拠を効果的に用いるとともに、反論などを想定して論理の展開を考えるなど、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・与えられたテーマから発想を広げて小論文を書く活動に興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	4
<p>・レポートの基本的な書き方を理解する。 ・客観的な根拠を集めて説得力のあるレポートをまとめる。</p>	<p>レッスン6 レポートを書く</p>	○	○	<p>【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、実社会の問題や自分に関わる事柄の中から適切な題材を決め、多角的な視点でアンケート調査の方法を考えて行い、伝えたいことを明確にしている。〔B(1)ア〕 ・「書くこと」において、文章と図表や画像などを関係付けながら、レポートや報告書を作成している。〔B(2)イ〕 【主体的に学習に取り組む態度】 ・調べたことをレポートにまとめることに興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	10	

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

地理歴史 科目 歴史総合

教科：地理歴史

科目：地理歴史

単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 1組

教科担当者：（1組：田中）

使用教科書：（現代の歴史総合（山川出版社））

教科 地理歴史

の目標：

【知識及び技能】

現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 歴史総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
歴史の扉 ①身近な事柄が、時間的な推移や空間的な結びつきのなかで歴史と結びつきをもっていることを理解する。 ②私たちの生活に関わる制度や習慣について分析する際に、歴史的に構築されていることをふまえることが大切であることを理解する。 ③資料にもとづいて歴史が叙述されていることを理解する。 ④資料の性格をふまえ批判的に読みとることについて理解する。	①歴史と私たち 現代の私たちと旅 ②歴史の特質と資料 歴史資料とは何だろうか	【知識・技能】 ・「旅」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。 ・「広がり」を考える際には、空間的な広がりや階層的な広がりを考えることが大切であることを理解している。 ・憲法制定を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸資料や図版などから適切に情報を読みとり、その時代の旅の様子や現代との異同を判断している。 ・「旅」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ・資料や図版などから適切に情報を読みとり、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断している。 ・憲法制定を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身近な題材に対して自身で「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。 ・資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。 ・資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	○	○	○	
第I部 近代化と私たち 第1章 結びつく世界と日本の開国 ①中国で手工業や技術の発展がみられるなか、輸送網と金融システムの展開によって活発な商取引がおこなわれていたことを理解する。 ②中国と日本の商品生産と流通を対比して、それぞれの経済発展や社会の変容について考察する。 ③幕藩体制のしくみと特徴について理解する。 ④大坂を中心とした遠隔地海運が発展し、各種の商品生産が発展したことを理解する。 ⑤アジア域内貿易がどのようにおこなわれていたかを理解する。 ⑥18世紀の中国がアジア域内貿易や貿易を通じて、欧米諸国とどのように結びついていたのかを理解する。 ⑦18世紀の日本がどこを結節点として、どのような形で世界と結びついていたのかを理解する。 ⑧産業革命がなぜイギリスから始まったのかを理解する。 ⑨産業革命が当時の人々の生活や社会におよぼした変化を理解する。 ⑩産業革命がイギリス以外に普及した過程と、国によってその様相が異なっていたことを理解する。 ⑪産業革命によって加速した世界の一体化が、どのように進み、どのような影響をおよぼしたのかを理解する。 ⑫欧米諸国が東アジアに勢力を拡大した理由と、開港場の増加や貿易制限の緩和など中国の外交政策の転換について理解する。 ⑬日本でも、「鎖国」政策の転換をせきら	1 18世紀の東アジアにおける社会と経済 2 貿易が結んだ世界と日本 3 産業革命 4 中国の開港と日本の開国	【知識・技能】 ・アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の資料を読みとり、そこで述べられている政府の存在意義を理解している。 ・アメリカ独立革命がこの時期におこった背景について理解している。 ・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について理解している。 ・諸資料から、国民国家を形成しようとする動きが19世紀になって広まった原因を理解している。 ・アメリカ合衆国の国民統合における南北戦争の意味について理解している。 ・西アジアにおける改革の動きとヨーロッパ進出の関係について理解している。 ・冒頭の資料や諸資料から、ペリー来航以降の国政の変化のなかで、政治参加の範囲が広がりをみせたことを理解している。 ・大名や下級武士、士族や豪農らが政治参加を求める運動の主体となったことや、その展開について理解している。 ・憲法制定が民権派との緊張のなかで政府の主導により実行され、議会の地位や参政権などに課題が残されたことを理解している。 ・諸資料から欧米諸国のアジア進出の背景や意図を読みとり、中国の開港や日本の開国が、人々の生活に与えた影響を理解している。 ・原材料の供給と製品の市場という形を通して、東アジアが世界各地と貿易で結びつけられていったことを理解している。 ・貿易の開始が東西文化に与えた影響、および人口の移動が移民問題に発展する過程について理解している。 ・戦争の有無や貿易の状況など、中国の開港と日本の開国がもつ相違点について理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸資料を読みとくことで、近世の中国社会と経済の特徴について考察している。 ・中国と日本の人口グラフおよび中国に関する資料を読みとり、両国の特徴と相違点を考察している。 ・アジア域内貿易のあり方を考察し、表現している。 ・18世紀の中国と欧米諸国との貿易のあり方を考察し、表現している。 ・18世紀の日本と世界の結びつきに着目して、日本がどのような形で世界と結びついていたのかを考察し、表現している。 ・大坂を中心とする経済の一体化と発展を、教科書の本文も利用しながら表現している。 ・産業革命による労働の質の変化について考察し、表現している。 ・産業革命が人々の生活に与えた影響をふまえ、豊かさとは何かについて考察している。 ・諸資料の読みとりを通して、欧米諸国のアジア進出の背景や目的を考察し、表現している。 ・中国の開港と日本の開国の背景や影響について、自身で問いを立てて表現している。 ・人・モノ・情報の往来を通して、世界経済のなかで東アジアがより大きな位置を占めるようになったことについて考察している。 ・中国と日本が新たに抱えた課題の共通点と相違点について考察している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・商業ルートの発達の地図と資料を組みあわせて理解しようとしている。 ・18世紀の人口増加のグラフを参照しながら、17世紀と19世紀の日中比較や背景などに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・江戸時代の日本の国制の図をみて、現在の日本との違いについて具体的な事例をあげて意見交換しようとしている。 ・18世紀の中国や日本と世界の結びつきについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・18世紀の中国や日本と世界の結びつきが、その後の時代にどのように変容するかなどの視点から、その後の学習につなげようとしている。	○	○	○	

<p>れ、貿易を開始したことがその後の政治に与えた影響について理解する。 ⑭中国の開港・日本の開国と産業革命との関係、および従来の東アジア地域間の貿易や人・情報の流れの変容について考察する。</p>		<p>点をもち、その後の学習につなげようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命の進展について、見直しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・産業革命期の児童労働がみずから同世代の境遇であることと理解し、問題の原因について主体的に追究しようとしている。 ・交通の発達を描いた絵の内容を読みとったうえで、自分なりに適切であると思う絵のタイトルを考察し、表現しようとしている。 ・諸資料の読みとりを通して、中国の開港と日本の開国により、東アジアがどのように変容したかという問いに対して、見直しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・開港と開国以降、その後の時代に何がどのように変容するかという俯瞰的な視点を持ち、産業革命や条約改正などの中学校までの学習を活用して、その後の学習につなげようとしている。 				
<p>定期考査</p>			○	○	○	
<p>1 学期</p> <p>第2章 国民国家と明治維新 ①アメリカ独立革命が1つの市民革命であったことを理解する。 ②フランス革命のなかでめざされた様々なことについて理解する。 ③ナポレオンの台頭とフランス革命の関係について理解する。 ④アメリカ独立革命とフランス革命が世界各地に与えた影響について理解する。 ⑤ヨーロッパ諸国が国家統一や改革へ乗り出した背景について理解する。 ⑥国民国家の特徴について身分制国家などと対比して理解する。 ⑦独立後のアメリカ合衆国における国家統一の経緯について理解する。 ⑧オスマン帝国とガージャール朝における改革の動きについて理解する。 ⑨日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などをもとに、立憲体制と国民国家の形成について理解する。 ⑩国民国家の形成の背景や影響などに着目して、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察する。 ⑪産業革命の成功国との自由貿易にともなう、日本の産業界の変容と再編の過程について理解する。 ⑫近代産業発展の基盤となる政府の金融・貨幣制度の整備、および情報伝達や交通網の整備を含む殖産興業政策について理解する。 ⑬紡績業と製糸業の特徴と相違点、経済発展に果たした役割について理解するとともに、民間産業の成長と財閥の成立要因および産業革命成立との関連について考察する。 ⑭欧米諸国による植民地化の背景や経緯について理解する。 ⑮帝国主義が西アジアや中央アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。 ⑯帝国主義が南アジアや東南アジアにどのような変化をおよぼしたのかについて理解する。 ⑰明治維新後の日本が、外交交渉や国境の画定を通して、主権国家、国民国家の形成をめざしたことについて理解する。 ⑱朝鮮の近代化がどのような国際関係のもとで進み、日本や清・ロシアなどの周辺国がどのように対応したかについて理解する。 ⑲日清戦争の勝利が、朝鮮・日本・中国などの東アジアの国際秩序に与えた影響について考察する。 ⑳日清戦争後の欧米列強や日本の勢力拡大に対する、清や朝鮮の政府や民衆の動向について理解する。 ㉑日露戦争後の日本の動向、および韓国の植民地化など東アジアをめぐる国際関係の変容について理解する。 ㉒日露戦争後、辛亥革命に至る中国の民族運動と近代化の動向について理解する。</p>	<p>1 市民革命 2 国民国家とナショナリズム 3 明治維新 4 日本の産業革命 5 帝国主義 6 変容する東アジアの国際秩序 7 日露戦争と東アジアの変動</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立宣言やフランス人権宣言の資料を読みとり、そこで述べられている政府の存在意義を理解している。 ・アメリカ独立革命がこの時期におこった背景について理解している。 ・ラテンアメリカ諸国の独立の背景や経緯について理解している。 ・諸資料から、国民国家を形成しようとする動きが19世紀になって広まった原因を理解している。 ・アメリカ合衆国の国民統合における南北戦争の意味について理解している。 ・西アジアにおける改革の動きとヨーロッパ進出の関係について理解している。 ・冒頭の資料や諸資料から、ペリー来航以降の国政の変化のなかで、政治参加の範囲が広がりをみせたことを理解している。 ・大名や下級武士、士族や豪農らが政治参加を求める運動の主体となったことや、その展開について理解している。 ・憲法制定が民権派との緊張のなかで政府の主導により実行され、議会の地位や参政権などに課題が残されたことを理解している。 ・自由貿易開始にともなう国際経済の枠組みへの参入が日本社会、とくに近代産業の発展に与えた影響について理解している。 ・積極財政と緊縮財政の相違点、日本銀行の役割、貨幣価値や為替相場の安定の仕組みについて理解している。 ・紡績業と製糸業の生産方法、原料や機械、海外市場、労働者の技術、日本経済に与えた役割などについて対比して理解している。 ・イギリスよりも遅れて始まった日本の産業革命が短期間で達成された要因について理解している。 ・諸資料から、帝国主義を進めた諸国の共通点と相違点を理解している。 ・西アジアと中央アジアにイギリスとロシアがとくに影響をおよぼしたことを理解している。 ・南アジアと東南アジアが植民地としてどのような役割を担わされたのか理解している。 ・日本が、領土の画定、条約改正、国交の締結などの外交交渉を通して、主権国家として近代化がめざされたことについて理解している。 ・朝鮮の近代化に東アジア諸地域の変化が与えた影響、および周辺国が朝鮮の内政に介入した理由について理解している。 ・条約改正の経過および日清戦争との関係について理解している。 ・日清戦争が、中国を中心とした東アジアの国際秩序の変化および日本の帝国主義政策に与えた影響について理解している。 ・日清・日露戦争を通して日本国民の対外意識が変化したことについて理解している。 ・日露戦争における日本の勝利が、アジア諸民族の独立や近代化の動きに刺激を与えたこと、およびその後の変容について理解している。 ・韓国の植民地化や辛亥革命による清の滅亡と中華民国の建国などの東アジアの変容について、帝国主義政策を結びつけて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ独立革命とフランス革命の共通点と相違点について考察している。 ・フランス革命やナポレオンの進出が他のヨーロッパ諸国に与えた影響について考察している。 ・国民国家の形成がもたらした影響や課題について考察している。 ・西アジアにおける改革の動きについて、日本との比較もふまえて考察している。 ・諸資料の読みとりを通して、幕末から明治時代初期の政治や社会の変動について考察し、五箇条の誓文が、国会開設の出発点となったことを考察している。 ・日本の立憲国家の成立過程の特徴を欧米の事例の学習を振り返りながら比較の視点を用いて整理し、当時、欧米からなされた評価の意味や課題を考察している。 ・国民統合や文明開化といった社会の変化が人々に与えた影響について、階層や地域による違いを整理し、表現している。 ・幕末における自由貿易と国内産業の再編が、資本家層の形成につながることを通して、産業革命や資本主義成立との関連について考察している。 ・緊縮財政や金本位制への移行など、経済政策がもつ長所と短所について整理し、考察している。 ・炭鉱や造船所などの払い下げが、民間産業の育成や財閥の成長につながったことを考察している。 ・ヨーロッパ諸国における帝国主義と国民国家の関係について考察している。 ・帝国主義において、軍事面だけでなく経済面や文化面からの要素もふまえて考察している。 ・諸資料の読みとりを通して、明治初期の諸条約の歴史的意義を考察するとともに、琉球および蝦夷地の日本への編入についても考察している。また、その際に北方領土や尖閣諸島、竹島、小笠原諸島などが国際法上、正当な根拠にもとづき日本に編入されたことについて考察し、表現している。 ・朝鮮および周辺国が相互に求めた思惑について関連づけて考察している。 ・条約改正を通して、国民が何を望み、一方で何を危惧したかについて考察し、表現している。 ・諸資料の読みとりを通して、日清戦争前後にみられる日本人の 	○	○	○	

		<p>アジア観の変化について考察している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の読みとりを通して、産業革命後の列強が抱える経済的な諸問題と植民地獲得の動機について関連づけて考察している。 ・日露講和会議における両国の主張・立場の違いと妥協点について、現在どのように考えられているかも含めて考察している。 ・この時期における中国・朝鮮・日本の変容の歴史的経緯について、欧米列強の動きと関連づけて考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民革命の展開について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・フランス革命に関する風刺画を読みとるなかで、内容に関心を持ち、風刺画の意味について自分なりに考察しようとしている。 ・市民革命の定義について理解したうえで、日本の歴史を振り返り、市民革命と呼べるようなものがあつたかについて、自分なりに考察しようとしている。 ・国民国家の形成について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・フランス国歌の歌詞を読みとり、なぜそのような激烈な内容になったのか主体的に追究しようとしている。 ・「国民」という自明な概念について、歴史的な経緯をふまえ、あらためてその意味について自分なりに追究しようとしている。 ・日本はどのようにして国民が政治に参加する国になったのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・これまでの学習を振り返り、欧米諸国の立憲体制と比較しながら明治維新の特色や課題を考察しようとしている。 ・明治維新の特色や課題を整理し、今後の歴史展開に関わる課題を追究しようとしている。 ・欧米諸国との産業革命成立の違い、および日本の産業革命の特徴は何かという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・産業革命とその後の公害（環境）・労働・エネルギーなどの社会問題がどのように関連し、現代の諸課題とも結びつくのかという視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。 ・植民地化の進展について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・帝国主義に関する風刺画を読みとるなかで、内容に関心を持ち、風刺画の意味について自分なりに考察し、表現しようとしている。 ・植民地とされた地域には現在まで続く問題があることに気づき、このような歴史と現在の関係の類例がほかにないかについて、主体的に追究しようとしている。 ・日清戦争までの東アジアの歴史的経緯、および戦後の東アジアがどのように変容したかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・現在の領土問題やグローバル化の進展と主権国家の関係性などの視点を持ち、課題意識をもって考察し、その後の学習につなげようとしている。 ・アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、帝国主義政策の特徴や列強間の関係がどのように変化したのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・日露戦争の勝利が東アジア諸国の変容とどのように関連し、領 				
<p>近代化と現代的な諸課題 近代化の歴史に存在した「開発・保全」「対立・協調」「自由・制限」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかについて理解する。</p>	<p>1 開発・保全 2 対立・協調 3 自由・制限</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開発・保全」の観点から、環境に関する諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解している。 ・「対立・協調」の観点から、大政奉還、王政復古の号令および中国（清）の対外政策についての李鴻章に関する諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解している。 ・「自由・制限」の観点から、貿易に関する諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる近代化の歴史を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開発・保全」の観点から、環境の変化の背景や原因、結果や影響などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、表現している。 ・「対立・協調」の観点から、大政奉還、王政復古の号令でそれぞれの勢力が描いた政治構想、および中国（清）の対外政策に関する相違点と共通点の存在などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、表現している。 ・「自由・制限」の観点から、貿易政策の変化の背景や原因、結果や影響などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「開発・保全」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ・「対立・協調」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ・「自由・制限」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 	○	○	○	
<p>定期考査</p>			○	○	○	

<p>第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第3章 総力戦と社会運動</p> <p>①第一次世界大戦がなぜ最初の「大戦」となったのかを理解する。 ②第一次世界大戦と日本の関わりについて理解する。 ③第一次世界大戦にアメリカ合衆国がどのように関わっていたのかを理解する。 ④第一次世界大戦中にかわされた秘密外交を含む外交関係の内容と、その問題点について理解する。 ⑤第一次世界大戦中に各国でとられた総力戦体制の内容とその影響について理解する。 ⑥ロシア革命の経過、および「土地に関する布告」「平和に関する布告」などからわかるボルシェヴィキ政権の性格を理解する。 ⑦コミンテルンの設立と、それに応じた諸外国の反応を理解する。 ⑧対ソ干渉戦争からの経済政策の変化、およびスターリン政権の性格について理解する。 ⑨第一次世界大戦後のアメリカ合衆国の国際的地位の上昇とアメリカ国内の考え方の差異について理解する。 ⑩アメリカ合衆国の経済的繁栄と、アメリカ社会に存在した不寛容な傾向について理解する。 ⑪ヴェルサイユ条約の内容（国際連盟の設立・ドイツの賠償）、およびその結果としてのドイツの状況について理解する。 ⑫ワシントン会議で締結された3つの条約（ワシントン海軍軍縮条約・四カ国条約・九カ国条約）の内容、およびアメリカ合衆国の意図について理解する。 ⑬日本が協調外交を推進した意図および軍部の反発について理解する。 ⑭アメリカ合衆国の孤立主義およびドイツの賠償金支払い緩和策（ドーズ案・ヤング案）について理解する。 ⑮第一次世界大戦直前の日本で、貿易赤字など国際収支の危機が続いた理由について理解する。 ⑯第一次世界大戦がアジア市場に与えた影響、およびアメリカ合衆国が世界の経済的中心に移行したことについて理解する。 ⑰第一次世界大戦の開戦により、日本が債権国に転換するとともに、物価の上昇をもたらしたことについて理解する。 ⑱日本が戦後恐慌に見舞われた原因と経過について理解する。 ⑲1920年代の日本では恐慌が連続して、そのなかで積極財政と緊縮財政の双方がおこなわれたことについて理解する。 ⑳第一次世界大戦後に高揚した朝鮮半島や中国のナショナリズムのあり方やその相違点について理解する。 ㉑ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインドの経済的・社会的変容について理解する。 ㉒インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開について理解する。 ㉓欧米諸国において、工業化の進展により労働運動や社会主義運動が広がり、第一次世界大戦を機に参政権が拡大したことについて理解する。 ㉔日本では、大正デモクラシーの進展を受け、2度の護憲運動を経て政党内閣が成立したことについて理解する。 ㉕大正期におきた様々な社会運動の特徴と変容、および政府の対策について理解する。 ㉖アメリカ合衆国の大衆消費社会が、マスメディアを通して、生活や文化の平準化や画一化につながったことについて理解する。 ㉗日本でも大衆消費文化が流行し、新しい生活様式や価値観が都市部を中心に広がったことについて理解する。 ㉘高等教育の拡充やマスメディアの発達、大衆消費社会の発展や政治に与えた影響について理解する。</p>	<p>1 第一次世界大戦の展開 2 ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 4 世界経済の変容と日本 5 アジアのナショナリズム 6 大衆の政治参加 7 消費社会と大衆文化</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から、第一次世界大戦が当初の予想よりも長期化した要因を理解している。 ・ヨーロッパの戦争が日本やアメリカ合衆国など、ヨーロッパ外にまで拡大した経緯について理解している。 ・第一次世界大戦中に出示された十四カ条の平和原則と「平和に関する布告」の内容と意義について理解している。 ・諸資料から第一次世界大戦後のソ連とアメリカ合衆国の特徴について正しく理解している。 ・とくにソ連・アメリカの経済的な特徴（戦時共産主義・ネップ・五カ年計画・大量生産・大量消費）について理解している。 ・諸資料からヴェルサイユ体制・ワシントン体制の内容を理解している。 ・ヴェルサイユ条約でのドイツに対する賠償についての、フランス・イギリスとアメリカ合衆国の立場の違いを理解している。 ・ワシントン会議で締結された3つの条約の内容、およびアメリカ合衆国の意図を理解している。 ・日露戦争と紡績業の発展が、日本経済にそれぞれ与えた影響を理解している。 ・総力戦の直接的な影響を受けなかった日米両国が経済成長する要因を理解している。 ・大戦景気が国内の物価を上昇させ、実質賃金が低下した仕組みを理解している。 ・ドイツとの戦争が日本の産業に与えた影響、および好景気の反動により不況（恐慌）が拡大する仕組みを理解している。 ・1920年代に続いた恐慌への、政府の対応策の特徴について理解している。 ・諸資料から、朝鮮半島や中国の民族運動の様相とその相違を理解している。 ・ナショナリズムが高揚した時期の、中国やインド社会の様相とその変容を理解している。 ・教科書の本文や諸資料から、インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開を理解している。 ・欧米諸国では、国民生活の向上や工業化の進展、総力戦への協力により、女性や労働者などが一定の政治的影響力をもつに至ったことを理解している。 ・日本で男性の普通選挙法が成立した背景として、米騒動や日ソの国交樹立、共産党の成立などの社会や世界情勢の変化があったことを理解している。 ・労働運動と社会主義運動のもつ共通点と相違点を理解している。 ・社会運動の広がりや大衆社会の形成に、学問や教育制度、マスメディアの発達が影響を与えたことを理解している。 ・日本でも大量生産・大量消費を可能とした要因や価格の低下がもたらした社会変化、時間の概念の変化と余暇の拡大などの関連について理解している。 ・交通機関やマスメディアの発達が、都市部の拡大や余暇の多様化などの新しい生活様式をもたらしたことを理解している。 ・広告や宣伝が、社会や文化の平準化と画一化を進め、政府が宣伝・広報活動や言論の統制を強める過程について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の特徴について、それまでの戦争と比較したうえで考察している。 ・第一次世界大戦が人々の生活や社会に与えた影響について考察している。 ・「平和に関する布告」やコミンテルンの設立などからみられる社会主義革命の波及を、諸外国はなぜ恐れたのかについて考察している。 ・アメリカ合衆国の経済的繁栄がもたらした問題点について考察している。 ・諸資料から読みとれるパリ講和会議・ワシントン会議の各国の立場の違いについて考察している。 ・パリ講和会議は今までの講和会議とどのような違いがあったか、それはなぜかについて考察している。 ・パリ講和会議・ワシントン会議における日本の立場を考察している。 ・諸資料の読みとりを通して、日本の経済状況の変化について、時期を区分して考察し、表現している。 ・実質賃金と物価の関係、戦争による輸出入の変化、金の輸出禁止や解禁措置のもつ意味や影響について考察している。 ・積極財政と緊縮財政の具体的な方法と長所・短所について対比して考察している。 ・朝鮮半島・中国でのナショナリズムの様相とその相違を考察し、表現している。 ・ナショナリズムが高揚した時期の中国やインド社会の様相とその変容を考察し、表現している。 ・インドや西アジア諸地域のナショナリズムの特色とその展開を考察し、表現している。 ・諸資料の読みとりを通して、大正デモクラシーが、アメリカ合衆国の民主主義やロシア革命、社会主義政権の成立などの世界的な流れを受けて成長したことを考察している。 ・一方で当時の大衆政治運動が、大日本帝国憲法の枠内という限界を抱えていたことを、具体的に考察している。 ・日本でも、工業化の進展や職業婦人の社会進出などを通して、大衆が政治への影響力を強めたことについて考察している。 ・新中間層の出現や学問・教育・マスメディアの拡充が、男性普通選挙や政党内閣の成立に影響を与えたことについて考察している。 ・諸資料を活用しながら、大量生産・消費がもたらした大衆文化の広がり、新たな課題について考察している。 ・関東大震災と都市化、交通機関の発達と食・衣・住の変化、工業化の進展による人とモノの移動と新たな課題について、相互に関連づけて考察している。 ・科学技術や通信網の発達により、資本や情報もグローバル化し、世界的に社会の変容をもたらしたことについて考察している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の展開について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・第一次世界大戦に関するプロバガンダスターを読みとるなかで、内容に関心をもち、それらの意味について自分なりに考察しようとしている。 ・総力戦体制がとられた国家における人々の生活状況をふまえ、どのような問題点があるのか主体的に考察しようとしている。 ・第一次世界大戦後の世界におけるソ連とアメリカ合衆国の影響力について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・ソ連工業の推移のグラフなどから社会主義の経済的特徴を理解し、その利点および問題点を考察しようとしている。 ・アメリカ合衆国の不寛容な傾向について、どのような立場の人々が排斥の対象となり、なぜそのようなことがおこったのかを考察しようとしている。 ・第一次世界大戦後の新たな国際協調体制について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・ヴェルサイユ体制・ワシントン体制で生じた課題と、その課題が次の大戦を防ぐことができなかった理由を考察しようとしている。 ・なぜ課題の多い国際体制しか築くことができなかったのかについて、現在の国際体制と比較しながら考察しようとしている。 ・第一次世界大戦以降の経済状況の変容、アメリカ合衆国が世界経済の中心へと移行する要因、アジア市場が戦争を経てどのように変化したのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・大戦景気のなかで可視化された格差の拡大、および大戦後の国際環境の変化による不況から生じた経済的な要求と大衆運動の関係などの視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ・イギリスのインド統治のあり方や第一次世界大戦中のイギリスの多重外交などが、その後どのような状況を生み出したのかについての視点をもち、課題意識をもって追究しようとしている。 ・第一次世界大戦後に高揚したアジアのナショナリズムについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・明治時代と異なり、大正時代以降には様々な権利を求める運動が成長し、一定の成果を得ることができたのはなぜかという問いに対して、学習の見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・日本で男性普通選挙が成立しても、女性参政権の実現には至らなかった要因、および議院内閣制（「憲政の常道」）が当時は「慣習」でしかなかったことについての視点をもち、現代や他国の状況と比較して、その後の学習につなげようとしている。 ・都市的で画一化した生活様式や、大量生産と大量消費を前提とした大衆文化がどのように発展したのかという問いに対して、学習の見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・明治時代の家族像や当時の工女、現代社会における新しい家族像や女性の社会進出と、当時の大衆文化の成立はどのように関連するのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 				
---	---	--	--	--	--	--

第4章 経済危機と第二次世界大戦
①アメリカ合衆国で大恐慌が発生した原因と対策、および世界への波及について理解する。
②アメリカ合衆国のニューディール(政策)とその後の国内の変化について理解する。
③アメリカ合衆国の孤立主義、とくに中立法が内外に与えた影響について理解する。
④昭和恐慌の原因と、とくに農村への影響および政府の対策について理解する。
⑤政権交代による恐慌対策の転換と、その影響について理解する。
⑥イタリアやドイツでファシズムが伸長した背景とその特徴について、諸資料の比較・分析を通して理解する。
⑦ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンやソ連がファシズムに対してとった対応について理解する。
⑧ドイツがイタリア・日本に加えてソ連とも連携した要因と背景について理解する。
⑨中国国民党が南京国民政府を成立させた経緯と、国際社会、とくに日本や中国共産党との関係について理解する。
⑩日本が満洲事変を引き起こした理由、および国内政治や国際関係に与えた影響について理解する。
⑪日中戦争に至る背景と、2つの中国政府が成立するなかで戦争が長期化した理由について理解する。
⑫第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景とその情勢について理解する。
⑬第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関与したかについて、その背景や経緯をふまえて理解する。
⑭第二次世界大戦中に戦後構想はどのように進められたのか、および大戦末期の連合国内部の軋轢や原子爆弾の投下が戦後世界にどのような影響をおよぼしたのかについて理解する。
⑮1930年代の日本で、ソ連やドイツのような計画経済や全体主義的な政治体制が構築された経緯を理解する。
⑯戦時下において女性や植民地の民衆などの動員がおこなわれた背景や経緯、それらの結果や影響を理解する。
⑰民衆に対する無差別攻撃がおこなわれたことを第二次世界大戦の特徴と関連させて理解し、組織的な虐殺・虐待などによる被害が深刻な人権侵害をもたらしたことについて理解する。
⑱戦争動員の際に構築されたシステムが戦後の制度や経済に影響を与えたこと、および戦争に対する反省がおこなわれたことを把握し、第二次世界大戦を戦後社会の構築の観点から理解する。
⑲国際連合の特徴と課題を国際連盟と比較しながら理解する。
⑳第二次世界大戦後の世界経済秩序の形成過程と背景、その特徴を理解する。
㉑新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割を果たしたのかを理解する。
㉒新たな国際体制は、日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを理解する。
㉓占領と戦後改革について、ドイツと日本の事例を比較しながら、その特徴と展開を冷戦体制の文脈に位置づけて理解する。
㉔日本国憲法の成立について、その経緯を理解するとともに、日本の政治や社会への影響を諸資料を用いて説明できるようにする。
㉕戦後の政治や社会について、戦前からの連続や断絶の観点から理解する。
㉖米・英・ソの関係はどのように変容し、またそのなかで世界の分断はどのように表面化し進んだのかに着目して、冷戦がどのように表面化したのか、またその特徴はどのようなもので

1 世界恐慌の時代
2 ファシズムの伸長と共産主義
3 日中戦争への道
4 第二次世界大戦の展開
5 第二次世界大戦下の社会
6 国際連合と国際経済体制
7 占領と戦後改革
8 冷戦の始まりと東アジア諸国の動向
9 日本の独立と日米安全保障条約

【知識・技能】
・アメリカ合衆国の大恐慌と、ヨーロッパや日本がどのように結びついているのかについて理解している。
・日本が世界に先がけて恐慌から脱出した時期と要因について理解している。
・恐慌に向けた財政政策の相違点とそれぞれの長所・短所について、対比して理解している。
・恐慌脱出後の日本社会の変化、および新たに生じた問題点について理解している。
・諸資料から、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのヒトラー政権の共通点や特色、大衆から支持を受けた社会的背景を理解している。
・ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したこと、またそのなかでコミンテルンが人民戦線戦術を提唱したことや、その世界的影響を理解している。
・諸資料から、日本・ドイツ・イタリアが連携した目的や背景、および共産主義を敵とみなしていたドイツが、ソ連と連携した背景と影響について理解している。
・満洲事変と日中戦争がもつ共通点と相違点について、国際関係の変化を含めて理解している。
・日本政府と軍部の関係性、諸外国の対応、中国国内の政治体制の各変化について関連づけて理解している。
・戦争を抑止できず拡大に向かった諸要因について理解している。
・諸資料から、第二次世界大戦勃発の背景と大戦の推移、連合国の形成状況などの展開について理解している。
・諸資料から、第二次世界大戦中の日米対立の高まりと太平洋戦争に至った経緯を理解している。また、太平洋戦争中の日本がアジア地域に示した姿勢とその行動の実態の相違を理解している。
・諸資料から、連合国を中心とする戦後構想の推移とそのなかで生じた米英ソ間の軋轢を理解し、それがその後の世界にどのような影響を与えたのかを考察している。
・諸資料から、大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾が投下された背景などについて理解している。
・計画経済システムが構築された経緯や、戦時下で連合国・枢軸国ともに大規模な民衆動員がおこなわれたことやその経緯について理解している。
・諸資料から民衆動員が女性や植民地民衆など広大な範囲で展開されたこと、および戦争の被害、組織的虐待などで一般市民の大規模な犠牲が生じたことを理解している。
・動員や統制、戦争の被害の経験から戦後の政治制度や社会保障、権利や役割の考え方が変化するとともに民主主義や平和を尊重する価値観が広がったことを理解している。
・諸資料から、国際連合の形成過程や目的、その実情や課題を、国際連盟と比較しつつ理解している。
・教科書の本文や諸資料から、第二次世界大戦後の国際経済体制の特徴を理解している。
・諸資料から、新たな国際体制において、アメリカ合衆国がどのような役割をどのような姿勢で果たしたのかを理解している。
・諸資料から、新たな国際体制が日本の安全保障体制に与えた影響を理解している。
・ドイツと日本の占領体制の違いから、日本の政治・社会の体制がアメリカ合衆国の強い影響力のもとで構築されたことを理解している。
・女性や地主の地位の変化や、戦争犯罪人の処罰、日本国憲法の成立など戦前の政治・社会の体制の変革が求められた理由や経緯を理解している。
・政党政治が復活し、戦前の二大政党の流れをくむ保守政党が誕生したことや、革新勢力への注目も高まりを見せたことを理解している。
・諸資料から、米・英・ソの関係がどのように変容し、そのなかでヨーロッパの分断がどのように進んだのかについて理解している。
・世界の二極化がどのような形で展開したのかについて理解している。
・諸資料から、冷戦が分断国家を生み出し、アジア地域では熱戦という形で表面化したことについて理解している。
・年表や諸資料から、東西の緊張の高まりが、連合国の日本における占領政策を転換させたことを理解している。
・この当時のアメリカ合衆国がおこなった政策と関連づけながら、日米安全保障条約の意義と課題について理解している。
・日本と連合国との間に平和条約が結ばれ、日本が独立を回復した一方で、社会主義陣営の国々や東アジアの国々との間には別途条約の締結・交渉・賠償などの課題が残されたことを理解している。
【思考・判断・表現】
・グラフや統計などの諸資料を読みとり、経済状況の面期や政策の転換点について考察し、表現している。
・恐慌対策である積極財政と緊縮財政の相違点、および長所と短所について考察し、表現している。
・金本位制と管理通貨制の特徴と問題点、自国優先の諸政策が国際協調体制に与えた影響などについて考察し、表現している。
・現代社会など他の時代における同様の事例の有無を考察し、当時との違いについて対比して考察している。
・ファシズムが伸長した背景とその特徴を、イタリアのムッソリーニ政権とドイツのナチ党政権を比較しつつ考察し、表現している。
・ファシズムの伸張とヴェルサイユ体制崩壊のなかで、コミンテルンがとった人民戦線戦術とその世界的影響を考察し、表現している。
・日本・ドイツ・イタリアが連携した背景とその状況を考察し、表現している。
・互いに敵とみなしていたドイツとソ連が連携した背景とその影響について考察し、表現している。
・地図や諸資料の読みとりを通して、満洲事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。
・中国の関税自主権の変化が中国市場やとくに日本に与える影響と、この時期の軍事行動との関係について考察し、表現している。
・満洲国および2つの国民政府の並立に対して、西ヨーロッパ諸国や日本がどのように関わったのかについて考察している。
・第二次世界大戦が、大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移を考察し、表現している。
・ヨーロッパで始まった第二次世界大戦にアメリカ合衆国と日本がどのように関わったのか、および何が太平洋戦争勃発の要因となったのかについて考察し、表現している。
・連合国を中心とする戦後構想の推移とそのなかで生じた米・英・ソ間の軋轢と戦後世界への影響を考察し、表現している。
・大戦末期の日本の状況とそれを取り巻く米・英・ソの認識、原子爆弾の投下について考察し、表現している。
・諸資料から読みとった情報をもとに、民衆動員の規模や時期について適切に整理し、その特徴を考察している。
・戦争の直接的な結果とは別に虐殺や虐待がおこなわれたことや、その規模について諸資料をもとに考察している。
・動員や統制の経験や、そのシステムが戦後における女性や植民地民衆の動き、および経済のシステムに与えた影響について考察し、表現している。
・国際連合の特徴やその課題を、国際連盟と比較するなどして考察し、表現している。
・第二次世界大戦後の国際経済秩序の特徴とその形成の背景を考察し、表現している。
・第二次世界大戦前と比較して、アメリカ合衆国はどのような姿勢で国際秩序形成に関わり、どのような役割を果たしたのかを考察し、表現している。
・第二次世界大戦後の日本のおかれた状況に着目して、新たな国際体制が日本の安全保障体制にどのような影響を与えたのかを考察し、表現している。
・諸資料をもとに日本とドイツの占領体制の共通点と相違点を適切に判断し、冷戦体制の文脈のなかでその影響や結果を考察している。
・諸資料から読みとった情報をもとに、天皇の位置づけや女性の地位などの変化について、これまでの学習と関連づけながら考察し、表現している。
・戦後改革や敗戦後の社会の混乱のなかで人々の価値観が変容したことや、それが政治社会運動に結びついていることについて、諸資料をもとに考察し、表現している。
・アメリカ合衆国を中心とする資本主義陣営とソ連を中心とする社会主義陣営の動向を結びつけたり比較したりして、冷戦の表面化とその特徴を考察し、表現している。
・表面化した冷戦が国際社会にどのような形で影響を与え、進展したのかについて考察し、表現している。
・ヨーロッパとアジアにおける冷戦の表面化はどのような違いがあったのかについて考察し、表現している。
・諸資料をもとにアメリカ合衆国の占領政策が転換した原因やその影響について考察している。
・日本の独立回復や安全保障のあり方について国内で論争が生じたことや、その論争の所在について諸資料をもとに考察し、表現している。
・独立後の日本の米軍基地および復帰前の米軍基地をめぐる問題の共通点と相違点を整理し、考察している。
【主体的に学習に取り組む態度】
・アメリカ合衆国で発生した大恐慌が、ヨーロッパ諸国や日本をどのように巻き込み、各国はどのように対応したのかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。
・世界恐慌への対応が国際協調体制を動揺させ、その反省から戦後の国際機関や経済の枠組みが再構築されたという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。
・ファシズムの伸長とヴェルサイユ体制の崩壊、共産主義勢力の対応について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。
・ドイツとソ連の連携が、第二次世界大戦の情勢にどのような影響を与えることになったのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。
・世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
・第二次世界大戦後の社会が、満洲事変や日中戦争から始まる戦禍の反省のうえに成り立っているという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。
・第二次世界大戦が大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と大戦の推移について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。
・第二次世界大戦中の戦後構想や原子爆弾の投下が、その後の世界に何をもちたのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。
・第二次世界大戦は人々にとってどのような経験であったのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
・第二次世界大戦下の社会の学習を振り返り、現代における平和構築や人権の課題などについて深まらなければならない。

<p>予期 あったのかを理解する。 ②⑦表面化した冷戦は国際社会にどのような影響を与えたのかを理解する。 ②⑧冷戦は1940年代後半から50年代初頭にかけて、ヨーロッパやアジアにおいてどのような形で表面化したのかを理解する。 ②⑨第二次世界大戦後の国際秩序と関連づけながら、日本の国際社会への復帰の経緯を理解する。 ③⑩冷戦の経緯から日本に期待された役割や、アメリカ合衆国がおこなった政策の意味を理解する。 ③⑪独立の経緯から、その後の日本に残された課題について理解する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・考察した結果を他者と共有したり、他者の意見を生かしたりして自身の考察を一層深めようとしている。 ・新たな国際体制はどのように形成されたのかという問いについて、学習の見直しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・国際連合や新たな国際経済秩序にはどのような課題があり、国際社会にどのような影響をおよぼしたのかという視点をもち、その後の学習につなげて追究しようとしている。 ・日本の安全保障体制は、その後の国際社会の情勢によりどのように変容したのかという視点をもち、その後の学習につなげて追究しようとしている。 ・占領は日本をどのように変えたのかという問いについて、見直しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・諸資料を比較したり、分析したりした結果を活用して、現代的な課題と関連づけながら自身の考えを構築しようとしている。 ・考察した結果を他者と共有したり、他者の意見を生かしたりして自身の考察を一層深めようとしている。 ・世界の分断はどのように表面化し進んだのかという問いについて、学習の見直しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・冷戦の表面化と軍事ブロック化、アジア地域での熱戦が、その後の冷戦の進展と国際社会の変容にどのような影響をおよぼしたのかという視点をもち、その後の学習につなげて追究しようとしている。 ・冷戦の表面化が、第二次世界大戦後の日本のあり方にどのような影響をおよぼしたのかという視点をもち、その後の学習につなげて追究しようとしている。 ・日本はどのようにして国際社会に復帰したのかという問いについて、見直しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・諸資料の比較、分析を通して、サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約の成果と課題について、現代の諸課題と結びつけて自身の考えを構築しようとしている。 				
<p>定期考査</p>			○	○	○	
<p>国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 国際秩序の変化や大衆化の歴史に存在した「対立・協調」「統合・分化」「平等・格差」に関わる課題について諸資料を活用して考察し、それらが現代的な諸課題の形成にどのように関わっているのかを理解する。</p>	<p>1 対立・協調 2 統合・分化 3 平等・格差</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対立・協調」の観点から、日本とインドの鉄道の相違点、日本における鉄道政策をめぐる対立や鉄道事業の国有化と分割民営化など、鉄道政策に関する諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 ・「統合・分化」の観点から、移民と国民統合や国際社会に関する諸資料の情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 ・「平等・格差」の観点から、開催地からみるオリンピックや、競技数からみる格差と平等の実現に関する諸資料から情報を適切かつ効果的にまとめ、現代的な諸課題に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対立・協調」の観点から、地域ごとの鉄道政策や鉄道に対する価値観の違い、地理的要因や現代社会との関連、異なる政策がもつそれぞれの長所・短所などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現している。 ・「統合・分化」の観点から、移民の背景や国民統合との関係などに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現している。 ・「平等・格差」の観点から、オリンピックの開催地や競技数にみられる男女の格差と平等の実現の観点から、地域や競技内容の違いに着目して、これまでの学習を振り返り、資料を活用して、現代的な諸課題との関連を考察し、探究した結果を表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対立・協調」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ・「統合・分化」について、移民と国民統合、移民と国際社会との関わりを考察し、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 ・「平等・格差」について、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりをふまえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりや課題を見出そうとしている。 	○	○	○	
<p>第5章 グローバル化と私たち ①冷戦が第二次世界大戦後に独立・建国した国々にどのような影響をおよぼしたのかを理解する。 ②ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢や、日本政府の立場などを理解する。 ③冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の姿勢を、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れなどの事例を通じて理解する。 ④東西両陣営の社会がどのように変容したのかを、アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国の関係およびソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力などを通じて理解する。 ⑤1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解する。 ⑥米・ソを中心とする宇宙開発競争や核軍拡の展開について、キューバ</p>	<p>1 冷戦下の地域紛争と脱植民地化 2 東西両陣営の動向と1960年代の社会 3 軍拡競争から緊張緩和へ 4 地域連携の形成と展開 5 計画経済とその波及 6 日本の高度経済成長 7 アジアの中の戦後日本</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響および冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解している。 ・パレスチナ問題や第1次・第2次中東戦争がどのような状況のもとで生じ、また推移したのかを理解している。 ・インド・パキスタンの分離独立や東南アジア諸国の独立とその状況を理解している。 ・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢、日本政府の立場などを理解している。 ・諸資料から、第三勢力の結集や非同盟諸国への流れを理解している。 ・諸資料から、1950年代のアメリカ合衆国や西ヨーロッパ諸国の動向およびアメリカと西ヨーロッパ諸国の関係の変化を理解している。 ・諸資料から、ソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力は、1950年代・60年代でどのように変化したのかについて理解している。 ・教科書の本文や諸資料から、1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて理解している。 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文、図、諸資料などから核兵器の開発と抑制の動きを理解している。 ・キューバ危機を示す風刺画や地図を読みとり、その意味を理解している。 ・核保有国の拡散について理解している。 ・第五福竜丸事件と第1回原水爆禁止世界大会開催との関連性について理解している。 ・イギリスのEC加盟を妨害するド＝ゴール大統領の風刺画に描かれている内容を正しく読みとっている。 ・ヨーロッパ＝アイデンティティと国民アイデンティティを示すグラフから、ヨーロッパ人意識の高い国と低い国を理解している。 ・ヨーロッパ統合の歩みと諸地域の統合の図を理解している。 ・アラブ連盟加盟国の旗の図から、それぞれの国旗の表す意味について理解している。 ・教科書の本文、図、諸資料などから計画経済とその波及についての特徴を理解している。 ・ガガーリンのポスターが、何年のどのようなできごとについてのものかを理解している。 ・米・ソの耐久消費財所有の比較をおこなうことができている。 ・中国の軽工業と重工業の推移を読みとることができている。 ・諸資料をもとに高度経済成長へと至る経緯について整理し、国際的・国内的な諸条件にもとづいて高度経済成長が達成されたことを理解している。 ・安保条約改定に関する資料などをもとに、保守政権の安全保障を争点とした政策の転換の結果、公共投資や社会保障の充実が進められたことを理解している。 ・高度経済成長や政策が社会的格差に影響を与えた一方で、過疎化や公害などの問題が生じたことを理解している。 ・諸資料から中華民国・中華人民共和国および韓国との関係構築が、アメリカ合衆国の東アジア政策の影響を受けながら展開したことを理解している。 ・諸資料から、東南アジア諸国への賠償を通じて日本企業の経済進出が進んだことを理解している。 ・ベトナム戦争と関連して沖縄の祖国復帰運動が活発化し、沖縄返還が実現したことを理解している。 				

<p>危機と部分的核実験禁止条約を事例として理解する。</p> <p>⑦反核・平和運動の始まりと展開について、日本の事例を中心に考察する。</p> <p>⑧デタント政策の展開と影響について理解する。</p> <p>⑨核拡散防止条約の背景と展開、および原子力発電所事故などの事例について考察する。</p> <p>⑩デタントが崩壊する過程について理解する。</p> <p>⑪西ヨーロッパ統合の背景と歴史的な過程について理解する。</p> <p>⑫東南アジアにおける連携と、ASEANの性格の変化について理解する。</p> <p>⑬アラブ・アフリカ・南北アメリカにおける連携の特徴について理解する。</p> <p>⑭第三世界がアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの社会をどのようにみていたのかについて理解する。</p> <p>⑮計画経済の特徴とその影響について理解する。</p> <p>⑯1960年代以降に明らかとなるソ連の不安定化について理解する。</p> <p>⑰中華人民共和国における社会主義体制の形成と大躍進運動について理解する。</p> <p>⑱プロレタリア文化大革命の展開と特徴について理解する。</p> <p>⑲日本の高度経済成長の要因について、世界経済や日本の社会構造、および政治との関わりから理解する。</p> <p>⑳保守政権が経済成長を重視するようになった経緯や結果、および人々のとらえ方について理解する。</p> <p>㉑日本の高度経済成長による生活や社会の変容について、新たに生じた課題などを理解する。</p> <p>㉒東アジア・東南アジアの国々との戦後処理や、国交正常化の経緯や影響について理解する。</p> <p>㉓日本と東アジア諸国の関係や沖縄をめぐる課題が、アメリカ合衆国の東アジア政策の変化と関わりをもって展開したことを、資料から理解する。</p>		<p>している。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮戦争や中東戦争、インドシナ戦争、ベトナム戦争など冷戦下の地域紛争の要因とその影響を考察し、表現している。 ・パレスチナ問題および第1次・第2次中東戦争の要因と推移を考察し、表現している。 ・インド・パキスタンの分離・独立や東南アジア諸国の独立について考察し、表現している。 ・ベトナム戦争に対するアメリカ合衆国や韓国の姿勢、日本政府の立場などを考察し、表現している。 ・第二次世界大戦後に独立国が増加したアジアやアフリカ諸国を中心とする第三勢力の結集や非同盟諸国への流れを考察し、表現している。 ・アメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国との関係の変化について考察し、表現している。 ・ソ連の東ヨーロッパ諸国に対する影響力は、1950年代・60年代でどのように変化したのかについて考察し、表現している。 ・差別撤廃運動や1968年の動きに着目して、1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて考察し、表現している。 ・キューバ危機における米・ソ双方の思惑と譲歩の内容について考察している。 ・核実験と実験回数を示す資料やスプートニク1号の打ち上げ成功が示す歴史的意味について考察し、表現している。 ・核廃絶に関連する資料の背景について考察している。 ・ブランド首相がなぜゲット一跡地でひざまずいて謝罪したのか、その歴史的背景について考察している。 ・ヨーロッパ統合に関する様々な資料から、イギリスのEEC加盟問題や、ヨーロッパ諸国の意識の違いについて、歴史的・経済的に考察している。 ・諸資料から、トルコがヨーロッパ統合に受け入れられない歴史的背景について考察している。 ・ASEANの結成と拡大の地図をみて、その特徴の変化とヨーロッパ統合との対比について考察している。 ・アメリカ合衆国が中米地域に対して内政干渉をおこなう際に、どのような論理を掲げているのかを資料から読みとって表現することができる。 ・ポスター、絵、写真、アネクトドなどの諸資料から、ソ連社会の実態について考察を深めている。 ・ネルーの「社会主義型社会」の資料を読みとり、それが生まれる背景を19世紀以来のイギリスとの関係のなかから考察している。 ・ソ連の経済成長率が鈍化してゆく背景や、中ソ対立における論点について理解し、考察している。 ・中国の軽工業と重工業の比率の推移から、国民生活にどのような影響がおよんでいるかを考察するとともに、反右派闘争の背景と展開など政治面の推移を考察している。 ・諸資料から高度経済成長が国内の安価な労働力、国際経済の好調、安価なエネルギー源の輸入に支えられていたことを考察している。 ・資料の内容や時期に着目し新安保条約をめぐる世論が変化した理由や、それが保守政権の政策に与えた影響について考察している。 ・グラフや地図などの資料から、高度経済成長による産業構造の変化や人口の移動、それによる社会の変化を考察し表現している。 ・諸資料から日本の債務賠償が日本と東南アジア諸国との経済的な結びつきに与えた影響を理解している。 ・韓国・中国との関係改善に至るまでの課題や、その克服、新たな課題について考察している。 ・冒頭の資料などから日中・日韓国交正常化や沖縄返還とアメリカ合衆国の東アジア政策との関連を考察し、表現している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦下でアジアやアフリカ諸国はそれぞれどのような動きを見せていたのだろうかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・第三勢力の動向が冷戦構造にどのような影響を与えたかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ・1950年代・60年代の東西両陣営の社会の変容について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 ・1960年代、人々は何をめざしてどのような運動を展開したのかについて、その運動が現在も問われている課題でもあるという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 ・核兵器の開発とそれにとまらぬ諸問題について、日本や世界の社会背景と結びつけて考察しようとしている。 ・核兵器の廃絶を求める市民運動や、ホロコーストに対する謝罪などの背景にある歴史的意味について、他者と意見交換しようとしている。 ・核兵器の開発と抑制の動きの歴史的背景について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・ヨーロッパ人意識を高める手段や仕掛けにどのようなものがあるのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・カール大帝とヨーロッパ統合の影響や関連性について、主体的に考察しようとしている。 ・ASEANと世界のどの地域や国々が協力を深めているのかについて考察しようとしている。 ・アフリカ統一機構の特徴とその限界について、資料をもとに考察しようとしている。 ・諸資料から、社会主義社会における特徴および価値観や理想像について見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・中国の大躍進政策に関する諸資料から、複数の歴史的なできごとを読みとり、現代の諸課題について新たな問いを立て、考察しようとしている。 ・高度経済成長をもたらしたものとその影響について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・諸資料の比較・分析を通して、日本の高度経済成長の意義や課題について自身の意見を構築しようとしている。 ・経済成長や公害といった学習内容を活用し、現代の諸課題について新たな問いを立て、考察しようとしている。 ・戦後処理を通じて、日本とアジアの国々がどのような関係を結んだのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ・現代の東アジアに関する問いに対して、自身の答えを追究しようとしている。 ・学習内容を活用し、現代の日本と東アジアの国々に関する諸課題について新たな問いを立て、追究しようとしている。 	○	○	○	
<p>定期考査</p>			○	○	○	
<p>第6章 世界秩序の変容と日本</p> <p>①ドル＝ショックの背景と内容、および影響について理解する。</p> <p>②オイル＝ショックの背景と影響について理解する。</p> <p>③大きな政府路線の行き詰まりについて理解する。</p> <p>④日本における高度経済成長の終焉について理解する。</p> <p>⑤日本の安定成長と経済摩擦の展開について理解する。</p> <p>⑥アジアNIESとASEANの成長と展開について理解する。</p> <p>⑦東南アジアの開発独裁の実態について理解する。</p>	<p>1 石油危機</p> <p>2 アジア諸地域の経済発展</p> <p>3 市場開放と経済の自由化</p> <p>4 情報技術革命とグローバリゼーション</p> <p>5 冷戦の終結とソ連の崩壊</p> <p>6 現代の東アジア</p> <p>7 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化</p> <p>8 地域統合の拡大と変容</p> <p>9 地域紛争と国際社会</p> <p>10 現代と私たち</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1973年頃の日本のスーパーマーケットの写真から、なぜこのような状況になったのかを理解している。 ・ドル＝ショックを示す新聞記事、および米ドルに対する円相場の推移グラフの意味するところを理解している。 ・原油価格の推移のグラフの意味するところを理解している。 ・日本の実質経済成長率と物価上昇率推移のグラフ、およびその変化の理由を読みとることができている。 ・1970年～2000年代にかけてのアジアのGDP推移グラフを読みとることができている。 ・インドとパキスタンとにわかれてしまった行政区画を3つ選ぶことができている。 ・創作四字熟語がそれぞれ何を意味するのかを理解している。 ・多国籍企業と国外へ向けられる投資の図を読みとり、理解している。 ・ワルグアイ＝ラウンドでめざされたことを理解している。 ・19～21世紀に関する諸資料を読みとり、情報通信網が核時代の国際経済体制の構築に果たした役割を理解している。 ・現代の情報技術革命が、軍事分野を主導とする端末の小型化やインターネットの普及によって達成されたことを理解している。 ・高度情報通信によるグローバル経済の発展や情報化社会の形成が、新たな経済格差や産業構造、マスメディア等に与えた影響を理解している。 ・米・ソの戦略核兵器配備状況のグラフをみて、核兵器保有の推移を理解している。 ・「社会主義勝利通り」という道路の名称がどのように変わったのかを理解している。 ・独立国家共同体の地図をみて、それに加わっていない国々を理解している。 ・グラフを読みとり、中国のGDPの伸長と、改革・開放政策、資本主義諸国との関係改善との関わりを理解している。 ・教科書の本文や諸資料から台湾・韓国の民主化の展開や、中国、北朝鮮との関係について 				

- ⑧インドの政治と社会について理解する。
- ⑨西アジア諸国と石油および資源ナショナリズムの展開について理解する。
- ⑩新自由主義の特徴について、イギリスや日本の事例から理解する。
- ⑪プラザ合意以後の貿易自由化の展開について理解する。
- ⑫20世紀後半の環境問題について理解する。
- ⑬マイクロエレクトロニクス (ME) 産業や情報技術 (IT) 革命とも呼ばれる情報通信技術の発展により、21世紀には高度情報化社会・知識基盤社会が到来したことを理解する。
- ⑭高度情報社会が新たな課題を生み出し、従来の社会のあり方が変容をせまられていることを理解する。
- ⑮現代的諸課題の形成や課題解決について歴史的経緯をもとに考察する。
- ⑯ソ連の改革と冷戦の終結について理解する。
- ⑰東ヨーロッパにおける社会主義体制の解体について理解する。
- ⑱ソ連の崩壊とロシア共和国の状況について理解する。
- ⑲中国で改革・開放路線が採用され急速な経済発展が進み、東アジアにおける地位が変化したことを理解する。
- ⑳韓国や台湾の民主化や、北朝鮮の体制、国際社会との関係について理解する。
- ㉑高度経済成長終焉後の日本の状況について、成長する東アジア諸国との関連のなかで考察する。
- ㉒東南アジア諸国の民主化の経過、および日本のPKO活動について理解する。
- ㉓南アフリカのアパルトヘイト政策の内容と撤廃までの経過を理解する。
- ㉔ラテンアメリカ諸国の民主化の経過とアメリカとの関係について理解する。
- ㉕各地域統合の経済的特徴について理解する。
- ㉖EUの成立までの経過と課題について理解する。
- ㉗世界での自由貿易協定 (NAFTA・FTA・TPP・WTOなど) の内容と課題について理解する。
- ㉘アジアでの自由貿易協定の動きと日本との関係を理解する。
- ㉙冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。
- ㉚紛争の解決に国際機構や日本が果たした役割について理解する。
- ㉛冷戦終結から現代に至るまでの諸課題の形成について整理し、今後の課題解決について考察する。
- ㉜歴史的経緯をふまえて、現代的な諸課題を理解する。
- ㉝諸資料から現代的課題の所在や、それらの原因や背景を分析するための手立てを理解する。
- ㉞現代的諸課題への問題意識をもち、問いを表現できるようにする。

- 理解している。
- ・東アジア諸国が経済成長を達成する一方で、高度経済成長終焉後の日本が抱えた課題や東アジア諸国との関わりの変化について理解している。
- ・ノーベル平和賞の受賞理由が多様化していることから、様々な平和活動をしている人物・団体がいることを理解している。
- ・東南アジア諸国の民主化と現状について理解している。
- ・南アフリカのアパルトヘイト政策撤廃までの経過を理解している。
- ・ラテンアメリカ諸国の民主化とアメリカ合衆国との関係について理解している。
- ・各地域統合を比較しながら、その経済的特徴を理解している。
- ・EUの成立までの経過と課題 (財政危機・移民・ポピュリズムなど) について理解している。
- ・各自由貿易協定の内容および貿易の自由化の課題 (雇用の喪失など) を理解している。
- ・各地域統合および自由貿易協定と日本との関係を理解している。
- ・安全保障理事会に関する資料などから、冷戦終結後の地域紛争の拡散やそれへの対応について理解している。
- ・冷戦終結後は地域の小規模紛争が拡大するとともに、国連機構が機能する場面と機能しない場面があったことを理解している。
- ・冷戦終結後に日米同盟の意義が変質し、日米の協力関係の強化や新たな国際貢献のあり方が求められるようになったこと、それに対し様々な議論が生じたことを理解している。
- ・世界の人口問題について、地域や経済状況の違いと関連させて理解している。
- ・エネルギー開発や自由貿易、核軍縮など、20世紀後半に推進された方法や考え方が21世紀初頭に見直されるなど、決して単線的に物事が進行しているわけではないことを理解している。
- ・新たな技術や秩序の登場が、従来の課題解決とともに社会の動揺や反動を生じさせることがあることを理解している。
- 【思考・判断・表現】
- ・オイルショックとドルショックに関する諸資料を読みとり、考察している。
- ・原油価格の推移のグラフをふまえて、日本がそれにどのように対応したのかについて考察している。
- ・産業用ロボットによる無人工場の写真から、それを可能とした技術面と人的側面について考察している。
- ・日本と主要先進国の経済成長率の推移グラフを読みとり、イギリス、アメリカ合衆国、ドイツなどとの対比を通して考察している。
- ・アジアNIESとASEANの成長に関する諸資料を、開発独裁の特徴と関連づけながら考察している。
- ・フィリピンにおける開発独裁の資料を読み、どのような国内勢力が支持しているのか、アメリカ合衆国が期待するものは何かについて考察している。
- ・西アジアにおける資源ナショナリズムや近代化政策の特徴を、イランを例にとって歴史的に考察している。
- ・新自由主義についての諸資料を用いながら、その推移の背景にある歴史事象について考察している。
- ・地球温暖化問題について、グラフと表から二酸化炭素排出量との相関関係について考察している。また、京都議定書の成果と課題について考察している。
- ・自動車メーカーの広告が狙いとしているところは何か、考察している。
- ・インターネット普及率や19世紀、20世紀の通信に関する諸資料から、通信網の整備と国際経済の発展との関連について考察している。
- ・グローバル経済の深化が世界規模の同時不況と結びつくことや、高度情報通信が発達した現在において生じている諸課題について考察している。
- ・高度情報化社会や知識基盤型社会と呼ばれる現代において、人々の考え方に与える変化、通信技術の開発や独占の弊害、普及の差異が社会に与える影響について考察し、表現している。
- ・アフガニスタン侵攻やゴルバチョフの改革、米・ソの戦略核兵器配備状況のグラフなどの諸資料を読みとるなかで、ソ連の社会がどのように変化したのかについて考察している。
- ・「ヨーロッパ=ピクニック計画」の地図と写真を正しく理解したうえで、これが東ヨーロッパ諸国に与えた影響について考察している。
- ・写真やグラフなどの諸資料から、中国の経済成長や国際社会における地位の変化について考察している。
- ・グラフから韓国と北朝鮮の経済状況の差異の広がりやその時期の政策の変化を関連づけて考察している。
- ・諸資料から戦後50年の時期までの日本の変化や東アジアにおける立場の変化について考察し、表現している。
- ・諸資料などを読みとり、各国の民主化における国際世論の影響について考察している。
- ・各国の民主化における日本の肯定的・否定的な影響についてそれぞれ考察している。
- ・各国の民主化の成果と課題について整理し、表現している。
- ・諸資料などを読みとり、各地域統合・自由貿易協定の課題について考察している。
- ・その諸課題と日本との関係についても考察している。
- ・冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを考察し、表現している。
- ・小規模紛争の拡大や、国連機構の機能する場面と機能しない場面が生じた原因について考察している。
- ・情報通信技術の発達や普及などの社会の変化が、アラブの民主化運動の拡散やテロ組織の活動と関連していることを考察し、表現している。
- ・地図やグラフを組みあわせ、諸課題の地域的な偏りや特徴を適切に考察している。
- ・グラフを読みとったり、比較したりしながら、今後の日本社会の動向やそれによって生じる社会の影響について考察している。
- ・これからの社会が直面する課題や、その望ましい解決策について、歴史上の類似事例を根拠としてあげながら考察し、表現している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】
- ・オイルショックとドルショックに関する諸資料を読みとるなかで、現代の諸問題や自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・日米貿易摩擦や主要通貨の対米ドル変動率の推移グラフなどの資料を読みとり、それが当時の日本と世界にどのような影響をおよぼしたのかについて考察しようとしている。
- ・インドの自動車の写真を参照しながら、どのようなメーカーのどのような車であるのかを主体的に調べて考察しようとしている。
- ・OPECの設立の図を分析して、OPECが結成された背景を類推し、OPECにおける発言力強い地域を考察するなど見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・風刺画や資料文からわかることを読みとくとき、サッチャーがどのような政策を実施しようとしているのかを考察しようとしている。
- ・19世紀末の「大不況」と20世紀末の「地殻変動」の表から、「新しい資本主義の確立」がなされた理由を、教科書の様々なページやほかの資料などを調べながら考察するなど、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・環境問題についての諸資料を参照しながら、自分自身や社会全体がどのようなことをおこなうべきなのかについて、考察しようとしている。
- ・情報技術革命は世界をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・諸資料の比較、分析を通して高度情報化社会や知識基盤型社会の到来について自身の意見を構築しようとしている。
- ・高度情報通信による諸課題について他者との意見交換を通し、考察しようとしている。
- ・ゴルバチョフの改革に関連した風刺画などの諸資料を読みとくとき、ソ連解体につながる歴史的背景について考察しようとしている。
- ・ソ連解体後の地図や、経済の停滞を示す2枚の風刺画を見比べるなかで意味内容の変化について考察し、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・今日の東アジアの国々にはどのような課題があるのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・東アジア諸国の課題と現状から、どのような取り組みが必要か考察しようとしている。
- ・これからの日本と東アジア諸国の関係はどのようにあるべきか、他者との意見交換をおこないながら構想し、考察しようとしている。
- ・各国の民主化の課題と現状をふまえて、どのような活動が必要かについて考察しようとしている。
- ・今後の日本の国際貢献はどうかあるべきか考察しようとしている。
- ・東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・各地域統合・自由貿易協定の課題に対する解決手段について、自身の問題として考察しようとしている。
- ・今後の国際社会はどのようにあるべきか、自身の意見を表現しようとしている。
- ・地域統合が人々や社会におよぼす影響について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・冷戦の終結は協調と平和をもたらしたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。
- ・深刻化する地域紛争の拡大が社会に与える影響について、自身の課題として考察しようとしている。
- ・歴史的な背景をふまえながら、今後の日本の安全保障政策や国際貢献といった課題にどのように取り組むべきか、自身の意見を表現しようとしている。
- ・自身の興味・関心に従って主題を選択・設定しようとしている。
- ・これまでの学習を振り返りながら自身で現代的な諸課題に対する問いを設定し、追究しようとしている。
- ・資料の読みとりや考察の結果などを他者と共有し、相手や自身の考察を一層深めようとしている。



現代的な諸課題の形成と展望	<p>①歴史的な見方や考え方を生かして、現代的な諸課題を考察する方法を理解する。</p> <p>②現在の課題解決や将来を構想するうえで、歴史的な見方・考え方を活用することが有効であることを理解する。</p> <p>③現代的な諸課題に対して、歴史的な問いを立て、これまでの学習をもとに考察し、表現できるようにする。</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸資料から問いを立てることができることや、経緯や背景、共通点や相違点、担い手といった視点から整理することが有効であることを理解している。 ・身近な課題を考察するうえで歴史的な見方や考え方を活用することが、現在の課題解決や私たちの将来を構想するうえで大切であることを理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連づけたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について考察、構想し、表現している。 ・資料に対し、その時代や資料を記録したものの立場などを文脈に応じて分析し、資料の意義を考察している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身で問いを立て、分析の方法や視点を設定し、その答えを追究しようとしている。 ・分析や考察の結果を他者と共有したり、比較したりして、自身の考えをより良いものに改善しようとしている。 ・より良い社会の実現を視野に歴史的な見方・考え方をいかそうとしている。 	○	○	○
定期考査			○	○	○

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 公民 科目 倫理

教科：公民

科目：倫理

単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組

教科担当者：（1組：佐藤）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（倫理（東京書籍））

教科 公民

の目標：

- 【知識及び技能】 政治・経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、人間としての在り方生き方についての自覚や、平和のために各国民が協力し合うことについて自覚を深める。

科目 倫理

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関する情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	第1章 人間の心のあり方 人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて理解し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。	第1節 人間とはなにか	・人間の特質や「考えること」の意義、青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・人間の特質や「考えること」の意義、青年期の位置づけや特徴、現代社会におけるその特質について自分自身に関連づけて捉え、他者と共によりよく生きるあり方を主体的に探究している。	○	○	○	5
	第1章 人間の心のあり方 人間の特質や青年期の課題、認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて理解し、他者と共によりよく生きる人間のあり方について考察することを通じて、豊かな自己形成に努める意欲を高める。	第2節 人間の心の働き	・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・認知、感情と個性、発達という人間の心の働きについて自分自身に関連づけて捉え、他者と共によりよく生きるあり方について主体的に探究している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1
	第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ さまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	第1節 哲学すること 第2節 ギリシャの思想 第3節 宗教と社会	・「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・幸福、愛、徳、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、自己の在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方の考察に関連付けて主体的に探究している。	○	○	○	8
	第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ さまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	第4節 キリスト教 第5節 イスラーム 第6節 仏教	・教科書記載の資料やコラム及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・幸福、愛、善、正義、義務、真理、存在などに着目して、インドで生まれた仏教に見られる人生観・倫理観・世界観を手がかりに、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について主体的に探究している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
2 学 期	第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ さまざまな人生観・倫理観・世界観について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	第7節 中国の思想 第8節 芸術	・教科書記載の資料及びその他の資料から、必要な情報を効果的に調べまとめている。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・幸福、愛、徳、真理、存在などに着目して、自分自身の内面にも美を求める心があること、それが人生を豊かにするものであること、芸術とは何か、芸術が人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、芸術家の考え方や生き方、作品を手がかりに、主体的に探究している。	○	○	○	5
	第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 現代の価値観に影響を与えた西洋近現代の諸思想について多面的・多角的に考察することを通じて、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について思索する。	第1節 近代と人間尊重の精神 第2節 近代思想の展開 第3節 人格の尊厳と人倫の思想	・西洋における近代化の特徴について、現代に通じる人間尊重の精神という観点から、歴史的背景とともに理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現している。 ・近代における人間と近代社会の在り方についての考え方を手がかりに、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方について主体的に探究している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1

1 期	第 3 章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 現代の価値観に影響を与えた西洋近 現代の諸思想について多面的・多角的 に考察することを通じて、人間として の在り方生き方や社会の在り方、世界 の在り方について思索する。	第 4 節 社会変革の思想 第 5 節 理性への疑念	・幸福、善、自由、正義、義務、真理、存在などに着目 して、現代の価値観に影響を与えた近代の社会変革の思 想について、歴史的背景とともに理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現 している。 キルケゴール、ニーチェ、フロイトの思想を手がかり に、人間としての在り方生き方や社会の在り方、世界の 在り方について主体的に探究している。	○	○	○	8
	第 3 章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 現代の価値観に影響を与えた西洋近 現代の諸思想について多面的・多角的 に考察することを通じて、人間として の在り方生き方や社会の在り方、世界 の在り方について思索する。	第 6 節 人間観・言語観の問い直し 第 7 節 他者・自然との関わり	・20世紀以降の諸思想について、従来の人間観や世 界観、言語観がどのように問いなおされたかという 観点から理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で 表現している。 さまざまな人物や宗教の考え方を手がかりに、自分 自身が他者や自然とどのようにかかわるべきかにつ いて主体的に探究している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	第 4 章 国際社会に生きる日本人としての自覚 古来の日本人の心情と考え方や日本の先 哲の思想について理解し、国際社会に主体 的に生きる日本人としての在り方生き方 について多面的・多角的に考察すること を通じて、人間としての在り方生き方や社会 の在り方、世界の在り方について思索する。	第 1 節 日本人としての精神風土 第 2 節 仏教と日本人の思想形成	・日本人の伝統的な自然観、宗教観、倫理観の特質について、 自己とのかかわりにおいて理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現してい る。 ・日本の古代史・中世史に関する基本的な理解にもとづき、古 来の自然や神に対する信仰との共存に着目して、さまざまな先 哲の思想を手がかりとして、仏教思想は日本人の思想形成にど のような影響を与えたのか、主体的に探究している。	○	○	○	5
	第 4 章 国際社会に生きる日本人としての自覚 古来の日本人の心情と考え方や日本の先 哲の思想について理解し、国際社会に主体 的に生きる日本人としての在り方生き方 について多面的・多角的に考察すること を通じて、人間としての在り方生き方や社会 の在り方、世界の在り方について思索する。	第 3 節 儒教と日本人の思想形成 第 2 節 国学の思想 第 3 節 庶民の思想	・日本の近世史に関する基本的な理解にもとづき、日本人の思 想形成に儒教が与えた影響について、さまざまな先哲の思想を 手がかりとして、中国の儒教や日本の仏教の思想傾向と比較し ながら、自己とのかかわりにおいて理解している。 ・理解したこと、考察したことなどを適切な方法で表現してい る。 ・日本の近世史に関する基本的な理解にもとづき、庶民が考え た諸思想や、近代精神の形成や倒幕に至った幕末の思想的背景 について、代表的な思想家の考え方を手がかりとして主体的に 探究している。	○	○	○	8
	定期考査			○	○	○	1

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科： 数学 科目： 数学Ⅱ 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者： （1組： 瀧澤・宮崎）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書： （ ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・多項式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにする。	・第1章第1節 式の計算	【知識・技能】 多項式の因数分解や割り算などの計算を理解している。 【思考・判断・表現】 分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 多項式の割り算の計算方法を理解しようとする態度がある。恒等式の性質を理解し、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	
	・数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。 ・方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができるようにする。	・第1章第2節 等式・不等式の証明 ・第2章第1節 複素数と2次方程式の解	【知識・技能】 恒等式 $A = B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。 【思考・判断・表現】 不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心を持ち、それを利用しようとする。	○	○	○	
	定期考査			○	○		
	・剰余の定理や因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	・第2章第2節 高次方程式	【知識・技能】 因数分解や因数定理を利用して、高次方程式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 多項式を1次式で割ったときの余りについて、剰余の定理で考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 1の3乗根の性質に興味・関心を持ち、具体的な問題に取り組もうとする。	○	○	○	
2 学 期	・座標や式を用いて、直線の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 ・座標や式を用いて、円の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	・第3章第1節 点と直線 ・第3章第2節 円	【知識・技能】 与えられた条件を満たす直線や円の方程式の求め方を理解している。 【思考・判断・表現】 円の方程式が x, y の2次方程式で表されることを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。	○	○	○	
	定期考査			○	○		
	・図形を、与えられた条件を満たす点の集合として認識するとともに、不等式を満たす点の集合が座標平面上の領域を表すことを理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・第3章第3節 軌跡と領域	【知識・技能】 軌跡の定義を理解し、与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 【思考・判断・表現】 平面上の点の軌跡を、座標平面を利用して考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 点が満たす条件から得られた方程式がどのような図形を表しているかを考察しようとする。	○	○	○	
	・角の概念を一般角まで拡張して、三角関数に関する様々な性質や式とグラフの関係について多面的に考察できるようにする。 ・加法定理を理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・第4章第1節 三角関数 ・第4章第2節 加法定理	【知識・技能】 単位円周上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。三角関数を含む2次方程式の解き方を理解している。加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 三角比の定義を一般化して、三角関数の定義を考察しようとする。	○	○	○	
定期考査			○	○			
・指数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・第5章第1節 指数関数	【知識・技能】 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。底と1の大小に注意して、指数関数を含む不等式を解くことができる。 【思考・判断・表現】 指数関数の増減によって、大小関係や不等式・方程式を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。	○	○	○		

	<ul style="list-style-type: none"> 対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。】 	<ul style="list-style-type: none"> 第5章第2節対数関数 	<p>【知識・技能】 対数の様々な性質を利用してきている。常用対数の定義を理解し、それに基づいて種々の値を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 対数関数の増減によって、大小関係や方程式・不等式を考察することができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 指数と対数との相互関係に興味・関心をもつ。</p>	○	○	○	
	定期考査			○	○		
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 微分係数や導関数の意味について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 導関数の理解を深めるとともに、導関数の有用性を認識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6章第1節微分係数と導関数 第6章第2節関数の値の変化 	<p>【知識・技能】 導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかいたりすることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 導関数を表す種々の記号を理解して、それらを適切に使うことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 関数の増減や極値を調べ、3次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。</p>	○	○	○	
	<ul style="list-style-type: none"> 積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第6章第3節積分法 	<p>【知識・技能】 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 定積分の性質を利用して、計算がなるべく簡単になるように工夫して計算しようとする意欲がある。</p>	○	○	○	
	定期考査			○	○		

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科： 数学

科目： 数学B

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者：（1組：瀧澤 美和（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（数研出版 新編 数学B ）

教科 数学

の目標：

【知識及び技能】

数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学B

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関りについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけようとする。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の家庭や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和	【知識・技能】 ・等差数列の一般項・等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。 【思考・判断・表現】 ・等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ・等差数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。 ・等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	○	○	○	5
等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 4 等比数列 5 等比数列の和	【知識・技能】 ・等比数列の一般項・等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。 【思考・判断・表現】 ・等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。 ・等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。 ・等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	○	○	○	5
定期考査			○	○		1
和の記号 Σ の表し方や性質を理解し、活用できるようにする。また、いろいろな数列について、その一般項や和を求めたり、和から一般項を求めたりできるようにする。	第1章 数列 第2節 いろいろな数列 6 和の記号 Σ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和	【知識・技能】 ・記号 Σ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。 ・階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 【思考・判断・表現】 ・数列の和を記号 Σ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。 ・数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数列の規則性を、隣り合う2項の差を用いて発見しようとする。 ・群数列に興味をもち、考察しようとする。	○	○	○	7
数列の帰納的な定義について理解し、漸化式から一般項が求められるようにするとともに、複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。	第1章 数列 第2節 いろいろな数列 9 漸化式	【知識・技能】 ・漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。 ・おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・複雑な漸化式を、おき換えなどを用いて既知の漸化式に帰着して考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。	○	○	○	5
定期考査			○	○		1

2 学 期	数学的帰納法の仕組みを理解し、 様々な命題の証明に活用できるようにする。	第1章 数列 第2節 いろいろな数列 10 数学的帰納法	【知識・技能】 ・数学的帰納法を用いて等式、不等式、自然数に関する命題を証明できる。 【思考・判断・表現】 ・自然数nに関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。	○	○	○	3
	確率変数と確率分布について理解し、 期待値や分散、標準偏差などを求めることを通じて、 分布の特徴を把握できるようにする。	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 3 確率変数の和と積	【知識・技能】 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 ・複雑な確率分布の期待値を、確率変数の和の期待値の公式などを利用して求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・確率変数の期待値、分散、標準偏差などを用いて確率分布の特徴を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・確率的な試行の結果を表すのに確率分布を用いることのよさに気づき、確率分布について積極的に考察しようとする。	○	○	○	9
	定期考查			○	○		1
	連続型確率変数についても理解し、 正規分布を様々な日常の事象の考察 に活用できるようにする。	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 4 二項分布 5 正規分布	【知識・技能】 ・反復試行の結果を、二項分布を用いて表すことができる。 ・正規分布に従う確率変数Xを標準正規分布に従う確率変数Zに変換できる。 【思考・判断・表現】 ・具体的な事象を二項分布として捉え、考察することができる。 ・正規分布を活用して現実のデータについて考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差の公式について、確率分布の定義から導こうとする。 ・現実のデータが正規分布に近い分布になることがあることに興味をもち、様々なデータについて考察しようとする。	○	○	○	8
定期考查			○	○		1	
3 学 期	母集団と標本、標本平均について理解し、 特に標本平均については、それが確率変数であることを正しく理解した上で 考察できるようにする。	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 6 母集団と標本 7 標本平均の分布	【知識・技能】 ・母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することを理解し、母平均、母標準偏差を求めることができる。 ・母平均と母標準偏差から標本平均の期待値と標準偏差を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・母集団分布と大きさ1の無作為標本の確率分布が一致することについて考察できる。 ・母平均と母標準偏差の考え方や標本平均の期待値と標準偏差の考え方がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・大数の法則に興味をもち、標本の大きさnが大きくなるときの分布曲線の変化を、コンピュータなどを用いて積極的に調べようとする。	○	○	○	6
	母平均や母比率の推定、正規分布を用いた 仮説検定ができるようにし、それらを日常の事象の 考察や様々な判断に積極的に活用しようとする態度を 育てる。	第2章 統計的な推測 第2節 統計的な推測 8 推定 9 仮説検定	【知識・技能】 ・信頼区間の考え方をを用いて、母平均や母比率の推定ができる。 ・仮説検定の考え方をを用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。 【思考・判断・表現】 ・片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。	○	○	○	6
	定期考查			○	○		1

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 物理基礎

教科：理科

科目：物理基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 1 組

教科担当者：（1組：兵藤 ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（第一学習社 新物理基礎 ）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する力を養う。	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	物体の運動 【知識及び技能】 物体の運動について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 物体の運動について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 10-39 第1章第1節「物体の運動」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
	力と運動の法則 【知識及び技能】 物体にはたらく力とその運動について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 物体にはたらく力とその運動について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 40-75 第1章第2節「力と運動の法則」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	
2 学 期	仕事と力学的エネルギー 【知識及び技能】 力学的エネルギーと仕事について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 力学的エネルギーと仕事について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 76-93 第1章第3節「仕事と力学的エネルギー」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	7
	熱とエネルギー 【知識及び技能】 熱と温度について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 熱と温度および仕事について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 98-111 第2章第1節「熱とエネルギー」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
波の性質 【知識及び技能】 波の性質と波動現象について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 波の性質と波動現象について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 116-131 第3章第1節「波の性質」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6	

	音波 【知識及び技能】 音の伝わり方や固有振動について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 音の伝わり方や固有振動について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 132-145 第3章第2節「音波」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	電荷と電流 【知識及び技能】 電気と物質の電気抵抗について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 電気と物質の電気抵抗について。規則性や関連性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 150-165 第4章第1節「電荷と電流」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	電流と磁場 【知識及び技能】 電流と磁場について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 電流と磁場について、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 166-173 第4章第2節「電流と磁場」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	4
	エネルギーとその利用 【知識及び技能】 さまざまな発電方法や放射線の性質を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 エネルギーの特性や利用などについて、規則性や関係性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 174-179 第4章第3節「エネルギーとその利用」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 化学基礎

教科：理科

科目：化学基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 1 組

教科担当者：（1組：兵藤 ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（第一学習社 新化学基礎 ）

教科 理科

の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、質的・量的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する力を養う。	物質とその変化について主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	物質の構成 【知識及び技能】 元素と物質の分類について学ぶ。 状態変化と熱運動について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 物質を分離・精製する方法を考える。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 18-31 第1章第1節「物質とその構成要素」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	物質の構成粒子 【知識及び技能】 原子の構造について学ぶ。 周期表について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 電子配置と周期表の属や周期との関連性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 32-45 第1章第1節「物質とその構成要素」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	5
	定期考查			○	○		1
	粒子の結合 【知識及び技能】 化学結合について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 結合と物質の性質との関連性を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 48-77 第1章第2節「化学結合」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	13
	定期考查			○	○		1
2 学 期	物質質量と化学反応式 【知識及び技能】 物質質量について学ぶ。 化学反応式について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 化学反応に関与する物質の量的関係を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 84-113 第2章第1節「物質質量と化学反応式」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	11
	定期考查			○	○		1
	酸と塩基の反応 【知識及び技能】 酸と塩基の定義について学ぶ。 中和反応について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 中和反応に関与する物質の量的関係を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養う。	教科書p. 118-141 第2章第2節「酸・塩基とその反応」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	10
	定期考查			○	○		1

3 学 期	酸化還元反応 【知識及び技能】 酸化還元の定義について学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 酸化還元反応に関与する物質及び 電子の量的関係を見出す。 【学びに向かう力、人間性等】 互いに教え合い、自ら学ぶ姿勢を養 う。	教科書p.144-167 第2章第3節「酸化還元反応」	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り 組み、提出している。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

年間授業計画 様式例

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 理科 科目 地学基礎

教科：理科 科目：地学基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 1組～ 組

教科担当者：（1組：加藤）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（地学基礎(出版社名)東京書籍、ニューサポート地学基礎(出版社名)東京書籍）

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に
- 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 地学基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。	観察、実験などの探究的な活動を通して科学の方法を習得することを目標にし、地球や地球を取り巻く環境に対する物事を多角的に考察し、表現する能力を高める。	地学的な事物・現象の中から問題を見だし、観察、実験などを通して探究の過程をたどることによって科学の方法を習得し、地学的に探究する能力と態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 大地とその動き 【知識及び技能】 地球の大きさ、構造、プレートの動きを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地球の大きさ、構造、プレートの動きを考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 地球の大きさ、構造、プレートの動きを知ろうとする。	・P14～30 ・QR教材	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	B 単元 火山活動と地震 【知識及び技能】 火山噴火の多様性、火成岩、地震の発生と場所を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地球の構造について物質から考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 地球の構造について知ろうとする。	・P32～49 ・QR教材 ・岩石モデルの観察	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	7
	定期考査			○	○		1
	C 単元 地球の熱収支 【知識及び技能】 大気構造、熱収支を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 大気で起こる現象を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 大気構造、熱収支を知ろうとする。	・P52～58 ・QR教材	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	5
	D 単元 大気と海水の運動 【知識及び技能】 運動の原因、循環、海水運動、相互作用を正しく理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 大気と海洋の相互作用を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 各現象を知ろうとする。	・P60～73 ・教材 ・一人1台端末の活用	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
定期考査			○	○		1	
2 学 期	A 単元 宇宙の構造と進化 【知識及び技能】 誕生、太陽系について正しく知ろうとする。 【思考力、判断力、表現力等】 太陽系の構成を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 太陽と地球について知ろうとする。	・P76～95 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	B 単元 地層と化石の観察 【知識及び技能】 地層の形成を正しく理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 地層から分かる情報を理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 知識と情報を活用しようとする。	・P98～102 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	5
	定期考査			○	○		1
	C 単元 古生物の変遷と地球環境 【知識及び技能】 地球史の初期を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 先カンブリア期、古生代、中生代、新生代を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 知識と情報を活用しようとする。	・P106～127 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	9

	D 単元 日本の自然の恵みと防災 【知識及び技能】 自然環境の特徴、恵み、防災を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 気象災害。地震災害、火山災害を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 知識と情報を活用しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・P130～144 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用 	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
3 学 期	A 単元 地球環境の考え方、自然環境の変動 【知識及び技能】 考え方、環境の変化を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 考え方、環境の変化を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 知識と情報を活用しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・P148～156 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用 	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	4
	B 単元 これからの地球環境 【知識及び技能】 世界の取り組み、代替エネルギーを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 持続可能な発展を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 知識と情報を活用しようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・P162～169 ・一人1台端末の活用 ・QR教材の活用 	【知識・技能】 知識・技能に関する考查問題が解ける。 【思考・判断・表現】 思考・判断・表現に関する考查問題が解ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 授業中の学習活動に参加している。課題に取り組み、提出している。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

保健体育 科目 体育

教科：保健体育

科目：体育

単位数：2 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組

教科担当者：（1組：谷野）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（ ）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくりの運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保することができるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
球技（バドミントン） ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	バドミントン	【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	○	○	○	6
体づくり運動 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立てて取り組むことができるようにする。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	体づくり運動	【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。	○	○	○	4
1 定期考査						

<p>中期</p>	<p>ウインドサーフィン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的にウインドサーフィン操作できるようにする ・ウインドサーフィンの操作技術などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ウインドサーフィンに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、ウインドサーフィンの事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保できるようにする。 	<p>ウインドサーフィン</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	4
	<p>ウインドサーフィン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的にウインドサーフィン操作できるようにする ・ウインドサーフィンの操作技術などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ウインドサーフィンに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、ウインドサーフィンの事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保できるようにする。 	<p>ウインドサーフィン</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	4
<p>定期考査</p>							
	<p>ウインドサーフィン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的にウインドサーフィン操作できるようにする ・ウインドサーフィンの操作技術などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ウインドサーフィンに自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、ウインドサーフィンの事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保できるようにする。 	<p>ウインドサーフィン</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。 【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	8

	<p>ウインドサーフィン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的にウインドサーフィン操作できるようにする ・ウインドサーフィンの操作技術などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・ウインドサーフィンに主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、ウインドサーフィンの事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保できるようにする。 	<p>ウインドサーフィン</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	8
2 学 期	定期考査						
	<p>武道</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったり事故や仲間の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、課題可決の方法、試合の仕方などを理解するとともに、得意技などを用いた攻防を展開することができるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組みを工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。 ・武道に主体的に取り組むとともに、相手を尊重し、礼法などの伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。 	<p>柔道</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	6
	<p>球技（バスケットボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。 	<p>バスケットボール</p>	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	6
	定期考査						

	<p>陸上競技（持久走）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付ける。 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・陸上競技に主体的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 	持久走	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	7
3 学 期	<p>球技（ソフトボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 ・生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝えることができるようにする。 ・球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、合意形成に貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い高め合おうとする事などや、健康・安全を確保することができるようにする。 	ソフトボール	<p>【知識・技能】 それぞれの技の名称があり、それぞれの技には、技能の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>【思考・判断・表現】 体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに運動を楽しむための調整の仕方を見付けている。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 自己や仲間の課題に応じた練習計画を見直すなど、互いに助け合い高め合おうとしている。 ・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p>	○	○	○	7
	定期考査						

高等学校 令和6年度（2学年用）教科

保健体育 科目 保健

教科：保健体育

科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組

教科担当者：（1組：谷野）（組：）（組：）（組：）（組：）（組：）

使用教科書：（現代高等保健体育）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】

各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージと健康の関連について説明できる。 ・各ライフステージで活用できる社会からの支援について例をあげることができる。 	ライフステージと健康	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 	○	○	○	3

<ul style="list-style-type: none"> ・思春期における体の変化を、女性と男性に分けて説明できる。 ・思春期の心の発達にかかわって起こる問題について例をあげることができる。 	思春期と健康	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2	
定期考査							
<p>1 学 期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性意識の男女差について例をあげて説明できる。 ・性情報が性行動の選択に影響を及ぼす例をあげることができる。 	性意識と性行動の選択	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・思春期の心身の変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2	

<p>・妊娠・出産の過程における健康課題について説明できる。</p> <p>・妊娠・出産期に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる。</p> <p>・家族計画の意義と適切な避妊法について説明できる。</p> <p>・人工妊娠中絶が心身に及ぼす影響について説明できる。</p> <p>・心身の発達と結婚生活の関係について説明できる。</p> <p>・結婚生活を健康的に送るために必要な考え方や行動をあげることができる。</p>	<p>妊娠・出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解したことを言ったり書いたりしている。 ・受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯の各段階における健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理している。 ・結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理している。 ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	2
<p>定期考査</p>						
<p>・加齢にともなう心身の変化について例をあげて説明できる。</p> <p>・高齢社会に必要な社会的な取り組みについて例をあげて説明できる。</p>	<p>中高年期と健康</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもつこと、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもつことなどが関係することについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価している。 ・生涯の各段階における健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>生涯の各段階における健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3

2
学期

<ul style="list-style-type: none"> 働くことの意義と健康とのかかわりについて説明できる。 働き方や働く人の健康問題の変化について説明できる。 労働災害の種類とその原因について例をあげて説明できる。 労働災害を防止するために必要なことをあげることができる。 職場がおこなう健康に関する取り組みについて例をあげて説明できる。 余暇を積極的にとることの意義について説明できる。 	<p>働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変わってきたことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用している。 労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理している。 労働と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>労働と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3
<p>定期考査</p>						
<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染の原因と健康への影響について例をあげて説明できる。 大気にかかわる地球規模の健康問題について例をあげて説明できる。 水質汚濁、土壌汚染の原因とその健康影響を説明できる。 大気、水、土壌にまたがる複合的な環境汚染の発生のしくみについて説明できる。 環境汚染による健康被害を防ぐ方法について説明できる。 産業廃棄物の処理について説明できる。 	<p>大気汚染と健康 水質汚濁。土壌汚染 環境と健康にかかわる対策</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康への影響や被害を防止するために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3
<ul style="list-style-type: none"> ごみの処理の現状やその課題について説明できる。 上下水道のしくみと健康にかかわる課題を説明できる。 食品の安全性を確保するための行政や製造者の役割について説明できる。 食品の安全性を確保するための個人の役割について説明できる。 	<p>ごみ処理と上下水道の整備 食品の安全性 食品衛生にかかわる活動</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境と健康について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用している。 環境と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>環境と健康について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	3
<p>定期考査</p>						

3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・保健行政の役割について例をあげて説明できる。 ・保健サービスの活用の例をあげるができる。 ・わが国における医療保険のしくみについて説明できる。 ・さまざまな医療機関の役割について説明できる。 ・医薬品の正しい使用法について説明できる。 ・医薬品の安全性を守る取り組みについて例をあげて説明できる。 	保健サービスとその活用 医療サービスとその活用 医療品の制度とその活用	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理している。 ・保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 【主体的に学習に取り組む態度】 保健・医療制度及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	4
	<ul style="list-style-type: none"> ・国際機関・民間機関などの保健活動について例をあげて説明できる。 ・行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる。 ・健康の保持増進のための環境づくりについて説明できる。 ・環境づくりへの主体的な参加が自他の健康づくりにつながることを説明できる。 	さまざまな保健活動や社会的対策 健康に関する環境づくりと社会参加	【知識・技能】 <ul style="list-style-type: none"> ・我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 ・一人一人が健康に関心をもち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 【思考・判断・表現】 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な保健活動や社会的対策について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 ・健康に関する環境づくりと社会参加について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 【主体的に学習に取り組む態度】 様々な保健活動や社会的対策について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 健康に関する環境づくりと社会参加について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
定期考査							

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科：芸術 科目：音楽Ⅱ 単位数： 単位
 対象学年組：第 2 学年 1 組～ 組
 教科担当者：（ 1 組：中野 ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）（ 組： ）
 使用教科書：（ 音楽Ⅱ tutti+ ）
 教科 芸術 の目標：

- 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に着けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 音楽Ⅱ

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に着けるようにする。	自己のイメージを持って音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	時配数
			歌	器	創						
1 学期	A表現 バンド形式のアンサンブル 【知識及び技能】 創意工夫を生かした表現をするために各楽器の特性に応じた技能を身に着けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 題材に対する自己のイメージを持たせ、各楽器の演奏表現を創意工夫させる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・共同的にバンド形式の演奏活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成する。	バンド形式のアンサンブル 自分たちで選択した楽曲、楽器編成で演奏活動を行わせる。 教材：「高嶺の花子さん」「フェジーネブル」「あなたに」	○	○			・各楽器の演奏表現やアンサンブルの音楽表現を創意工夫するために必要な技能を身に付けている。 ・自己のイメージを持ち、各楽器の演奏表現やアンサンブルの音楽表現を創意工夫している。 ・主体的・協働的に楽器及びアンサンブルの練習に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育んでいる。	○	○	○	20
	B鑑賞 我が国や郷土の伝統音楽の鑑賞 【知識】 能の文化的・歴史的背景と曲想と音楽の構造の関わり、及び音楽の多様性について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 生徒に我が国の伝統的な総合芸術を鑑賞させ、よさや美しさを自ら味わって鑑賞できるようにさせる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・協働的に鑑賞活動に取り組み、音楽文化に親しむ姿勢を養わせる。	能の鑑賞 能の音楽や演目を鑑賞させる。 鑑賞時には一人1台端末を活用。 教材：「羽衣」「高砂」など				○	・能の文化的・歴史的背景と曲想と音楽の構造の関わり、及び音楽の多様性について理解している。 ・我が国の伝統的な舞台芸術におけるよさや美しさを、自ら味わって鑑賞できている。 ・主体的・協働的に鑑賞活動に取り組み、音楽文化に親しむ姿勢を養っている。				8
2 学期	A表現 合唱 【知識及び技能】 創意工夫を生かした表現をするために曲の特性に応じた発声や歌い方の技能を身に着けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 題材に対する自己のイメージを持たせ、歌唱表現を創意工夫させる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・共同的に歌唱活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成する。	合唱 自分たちで選択した題材で歌唱活動を行わせる。 ソプラノ・アルト・テノール・バスに分かれて活動する。	○				・曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 ・音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。				16
	A表現 創作 【知識及び技能】 コードを基にした作品作りを創意工夫させるために必要な知識・技能を身に着けさせる。 【思考力、判断力、表現力等】 自己のイメージを持たせ、コードの知識を用いた作品作りの音楽表現を創意工夫させる。 【学びに向かう力、人間性等】 主体的・共同的に創作活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成する。	創作 コードの知識を用いて任意の曲を編曲する。		○	○		・コードの知識を用いた作品作りを創意工夫させるために必要な知識・技能を身に着けさせる。 ・自己のイメージを持たせ、コードを使った作品作りの音楽表現を創意工夫させる。 ・主体的・共同的に創作活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育成する。				12

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 美術Ⅱ

教科： 芸術 科目： 美術Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組～ 組

教科担当者： (1組： 荒岡裕子) (組：) (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (光村図書出版「美術2」)

教科 芸術 の目標：
 【知識及び技能】 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。
 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようになる。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			絵 ・ 彫	デ	映						
1 学 期	題材「自由なキャンパスに心の風景画を」(A絵画・B鑑賞) 【知・技】事象を捉える造形的な視点を持ち、個性豊かに表す【思考力、判断力、表現力等】美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る【学びに向かう力、人間性等】感性と美意識を高め、美術文化に親しむ	・油絵の特徴について理解し、制作に取り組む ・自己を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する ・表現形式について考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○			○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
	題材「自由なキャンパスに心の風景画を」(A絵画・B鑑賞) 【知・技】事象を捉える造形的な視点を持ち、個性豊かに表す【思考力、判断力、表現力等】美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る【学びに向かう力、人間性等】感性と美意識を高め、美術文化に親しむ	・油絵の特徴について理解し、制作に取り組む ・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す ・制作を通じて、自己を探究する姿勢を育む ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○			○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
	題材「自由なキャンパスに心の風景画を」(A絵画・B鑑賞) 【知・技】事象を捉える造形的な視点を持ち、個性豊かに表す【思考力、判断力、表現力等】美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る【学びに向かう力、人間性等】感性と美意識を高め、美術文化に親しむ	・制作を通じて、自己を探究する姿勢を育む ・制作を振り返り説明することで鑑賞を深める ・教科書の関連する項目を鑑賞する ・造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考える	○			○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
	題材「己を律するシンボルマーク」(Aデザイン・B鑑賞) 【知・技】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める【思考力、判断力、表現力等】自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める【学びに向かう力、人間性等】心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う	・生活や社会の中の美術の働きについての見方や感じ方を深める ・目的や条件などを基に、人と社会をつなぐデザインの働きについて考え、主題を生成する ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○			○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
2 学 期	題材「己を律するシンボルマーク」「PCを使って色の世界へ」(Aデザイン・A映像メディア表現・B鑑賞) 【知・技】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める【思考力、判断力、表現力等】主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む	・社会におけるデザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、個性豊かで創造的な表現の構想を練る ・教科書の関連する項目を鑑賞する ・Illustratorを活用したカラーコーディネート	○	○	○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9	
	題材「己を律するシンボルマーク」(Aデザイン・B鑑賞) 【知・技】意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す【思考力、判断力、表現力等】創造的な工夫から意図した表現をし、美術の働きを理解する【学びに向かう力、人間性等】感性と美意識を高め、美術文化に親しむ	・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す ・制作を振り返り説明することで鑑賞を深める ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○			○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
3 学 期	題材「道を照らす灯火」(A彫刻・Aデザイン・B鑑賞) 【知・技】対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深める【思考力、判断力、表現力等】造形的なよさや美しさを味わい、個性豊かに発想し構想を練る【学びに向かう力、人間性等】主体的に美術の創造的な諸活動に取り組む	・自然や自己を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成する ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○	○		○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9

期	題材 「道を照らす灯火」(A彫刻・Aデザイン・B鑑賞) 【知・技】 個性豊かで創造的に表すことができる 【思考力、判断力、表現力等】 自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める 【学びに向かう力、人間性等】 心豊かな生活を創造していく態度を養う	・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す ・制作を振り返り説明することで鑑賞を深める ・教科書の関連する項目を鑑賞する	○	○	○	知＝授業で得た知識を活用している 技＝意図に応じて用具の特性を生かしている 発＝造形的な考え、見方や感じ方を深めている 鑑＝鑑賞を通じて見方や感じ方を深めている 態表＝表現の創造活動に取り組んでいる 態鑑＝鑑賞の創造活動に取り組んでいる	○	○	○	9
										合計
										72

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

家庭 科目 家庭総合

教科： 家庭

科目： 家庭総合

単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者：（1組：金井洋子）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）（組： ）

使用教科書：（家庭総合 実教出版 ）

教科 家庭

の目標：

【知識及び技能】

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。

科目 家庭総合

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらにかかる技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	家族・家庭および社会 【知識及び技能】 家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や、男女の平等と協力、社会との関わりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 統計や家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、論理的に解決策を考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることができる。	家族・家庭の機能と家族関係 家族・家庭と法律 家庭生活と福祉 男女の平等と協力 家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性 社会保障制度	【知識・技能】 家族・家庭、世帯、親族などの違いを理解できたか。 家族・家庭と社会の関わりについて理解できたか。 民法の条文を読み取り理解することができたか。 社会保障制度の仕組みと活用や、現在の日本の社会保障制度の課題について理解できたか。 【思考・判断・表現】 統計や家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、論理的に解決策を考察できたか。 【主体的に学習に取り組む態度】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることができたか。	○	○	○	8
	青年期の自立 【知識及び技能】 青年期の課題である自立や意思決定の重要性、社会との関わりについて理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることができる。	各ライフステージの特徴と課題 青年期の課題である自立 意思決定の重要性	【知識及び技能】 青年期の課題である自立や意思決定の重要性、社会との関わりについて理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考察できたか。 【学びに向かう力、人間性等】 家庭や地域のよりよい生活を創造するために、男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について考えることができたか。	○	○	○	8
	衣生活の科学と文化 【知識及び技能】衣服の起源や歴史、風土に適した衣服、衣服が持つ機能や安全性などについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】衣服の起源や歴史、風土に適した衣服を鑑み、人はなぜ衣服を着るのか考えることができる。 【学びに向かう力、人間性等】衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。	衣生活を取り巻く課題 日本と世界の衣文化 被服と人との関わり	【知識及び技能】衣服の起源や歴史、風土に適した衣服、衣服が持つ機能や安全性などについて理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】衣服の起源や歴史、風土に適した衣服を鑑み、人はなぜ衣服を着るのか考えることができたか。 【学びに向かう力、人間性等】衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとしたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

2 学 期	衣生活の科学と文化 【知識及び技能】衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識や、縫製技術を身につけることによって、衣服を適切に選択し管理することができる。 【思考力、判断力、表現力等】衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。	身体特性と被服の機能及び着装 健康と安全、環境に配慮した自己と家族の衣生活の計画・管理 被服材料 被服構成 被服製作 被服管理	【知識及び技能】衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識や、縫製技術を身につけることによって、衣服を適切に選択し管理することができたか。 【思考力、判断力、表現力等】衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができたか。 【学びに向かう力、人間性等】衣生活の文化や、自分の衣生活をとりまく状況について関心を持ち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとしたか。	○	○	○	16
	生活を支える経済 【知識及び技能】生活における経済と社会のかかわりや、家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えをもち、判断ができる。 【学びに向かう力、人間性等】自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的にとりくもうとしている。	家計の構造 生活における経済と社会との関わり 生涯を見通した経済の管理、計画 ライフステージごとの課題や社会保障制度との関連	【知識及び技能】生活における経済と社会のかかわりや、家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】現在の経済社会と家計との関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えをもち、判断ができたか。 【学びに向かう力、人間性等】自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的にとりくもうとしたか。	○	○	○	10
	定期考査			○	○		1
3 学 期	消費行動と意思決定 【知識及び技能】消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を意欲的に考えようとしている。	消費生活の現状と課題 消費行動における意思決定や責任 ある消費の重要性 消費者問題 契約の重要性 消費者保護の仕組み	【知識及び技能】消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身につけているか。 【思考力、判断力、表現力等】消費行動における意思決定の過程について、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】これからの社会に求められる消費者の自覚と、行動のあり方を意欲的に考えようとしたか。	○	○	○	8
	持続可能なライフスタイルと環境 【知識及び技能】家庭生活と資源・環境との関係や持続可能な消費について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題を見つけ、解決の方向性を判断することができる。 【学びに向かう力、人間性等】持続可能な社会の実現に向けた消費行動について意欲的に考えようとしている。	生活と環境との関わり 持続可能な消費 持続可能な社会への参画	【知識及び技能】家庭生活と資源・環境との関係や持続可能な消費について理解できたか。 【思考力、判断力、表現力等】消費行動と環境とのかかわりについて、生活と関連させながら課題を見つけ、解決の方向性を判断することができたか。 【学びに向かう力、人間性等】持続可能な社会の実現に向けた消費行動について意欲的に考えようとしたか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

高等学校 令和6年度（2学年用） 教科

総合的な探究の時間 科目

教科： 総合的な探究の時間

科目：

単位数： 1 単位

対象学年組： 第 2 学年 1 組

教科担当者： (1組：田中・金綱・兵藤・加藤・竹田・中村・仙波)

(組：) (組：) (組：)

使用教科書： ()

教科 総合的な探究の時間

の目標：

【知識及び技能】

探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

実社会や実生活と事故との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
小笠原や東北地方に係る様々な分野において、情報を収集・整理・分析を通して問題解決能力を身に付ける。	小笠原や東北地方に係る様々な分野において探究・発表することで探究心と表現力及び問題解決能力を高める。	地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養う。将来に向けて自己の在り方を考え、より良い生き方を主体的に選択しようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	小笠原をテーマにビジネスプランを考えよう 【知識及び技能】小笠原に係る様々な課題を理解する 情報収集・整理・分析を通して問題解決能力を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】小笠原に係る様々な分野において探究・発表することで探究心と表現力及び問題解決能力を高める 【学びに向かう力、人間性等】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養う	地域や身の回りの生活から社会課題を見出す 課題解決手段となる「商品・サービス」「ターゲット」を設定する ビジネスプランシートを作成する 一人1台端末の活用	【知識・技能】小笠原に係る様々な課題を理解できたか 情報収集・整理・分析を通して問題解決能力を身に付けたか 【思考・判断・表現】小笠原に係る様々な分野において探究・発表することで探究心と表現力及び問題解決能力を高めたか 【主体的に学習に取り組む態度】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養ったか	○	○	○	8
2 学 期	修学旅行事前学習 東日本大震災と原子力発電について 【知識及び技能】東日本大震災と原子力発電に係る様々な課題を理解する 情報収集・整理・分析を通して問題解決能力を身に付ける 【思考力、判断力、表現力等】東日本大震災と原子力発電に係る様々な分野において探究・発表することで探究心と表現力及び問題解決能力を高める 【学びに向かう力、人間性等】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養う	東日本大震災と原子力発電について情報収集を行い社会課題を見出す 課題解決のため、情報収集・整理・分析手順を理解する 発表する 一人1台端末の活用	【知識・技能】東日本大震災と原子力発電に係る様々な課題を理解できたか 情報収集・整理・分析を通して問題解決能力を身に付けたか 【思考・判断・表現】東日本大震災と原子力発電に係る様々な分野において探究・発表することで探究心と表現力及び問題解決能力を高めたか 【主体的に学習に取り組む態度】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養ったか	○	○	○	8
3 学 期	修学旅行事後学習 東日本大震災と原子力発電について 【知識及び技能】東日本大震災と原子力発電のその後について理解する 【思考力、判断力、表現力等】事前学習による問題解決方法を検証する 【学びに向かう力、人間性等】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養う	東日本大震災と原子力発電のその後を理解する 発表する 一人1台端末の活用	【知識及び技能】東日本大震災と原子力発電のその後について理解できたか 【思考力、判断力、表現力等】事前学習による問題解決方法を検証できたか 【学びに向かう力、人間性等】地域社会を作る力を育むとともに、道徳性を養ったか	○	○	○	8